

施工説明書

防火対応 軒天換気材 (軒先・壁際タイプ)

[30分準耐火構造認定]

大臣認定番号 QF030RS-0364-1

大臣認定番号 QF030RS-0352-1

大臣認定番号 QF030RS-0363-1

[45分準耐火構造認定]

大臣認定番号 QF045RS-0354-1

大臣認定番号 QF045RS-0355-1

FV-DE12-1-L18 / FV-DE14-1-L18

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

正しく据え付けていただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき施工してください。
各大臣認定仕様に基づき施工方法が異なりますので軒天材にあわせて確実に施工してください。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

⚠ 注意

	この記号は、禁止の行為を示しています。
	この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。

	本製品に不必要な打撃を加えないでください。
	本製品の分解・改造などは行わないでください。
	沿岸地域(塩害の恐れのある地域)および濃霧多発地域、また、その他に錆を誘発する環境下へのご使用は避けてください。
	本製品を軒天以外の場所へ使用しないでください。
	本製品を野縁受けなどの下地材として使用しないでください。

保管についてのお願い

本製品の保管は、雨雪などのかからない屋内で平積みにて行ってください。

本製品は立て置きでの保管をしないでください。小口を傷めたり、ソリや変形の原因になる恐れがあります。

本製品を梱包ケースの小口から引き抜かないでください。製品に傷が付く場合があります。

施工についてのお願い

建築基準法並びに関係規則規定等に適合しているかご確認の上、ご使用ください。

大臣認定番号を使用する場合は、認定書の別添に従った材料の選定と施工をしてください。

野縁や鼻隠し下地などで軒天換気材の通気穴を塞がないようご注意ください。

防水紙を桁の上端まで確実に施工するなど、躯体側やその他水掛かりに注意が必要な部材には防水措置を確実に行ってください。

銅・鉛など異種金属との接触・接合は、電食が起こる場合がありますのでご注意ください。

また、銅・鉛などを含有した薬剤処理物(銅系防蟻処理木材など)との接触も同様にご注意ください。

鉄粉・モルタルなどの異物接触により、表面に変色や錆が生じる場合がありますので注意してください。

給湯器等の燃焼ガスの接触により塗膜剥離が起こる恐れがありますのでご注意ください。

本製品は金属製のため、手等を切る恐れがありますので十分注意してご使用ください。

塗装面と比較して錆びやすい小口部分は、必要に応じて専用補修塗料(スプレータイプ)を塗るなどの処理をおすすめします。

専用補修塗料(スプレータイプ)を準備しております。ご用命の際は最寄りの営業所へご連絡ください。

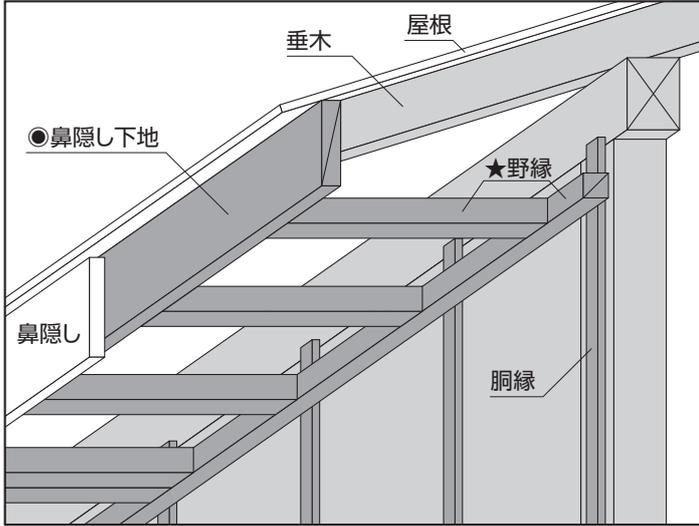
防火対応 軒天換気材(軒先・壁際タイプ) 認定一覧

大臣認定番号	対応品番	指定軒天材	適応 軒天厚さ	適応 軒の出	備考	該当頁
30分準耐火構造認定						
QF030RS-0364-1	FV-DE12-1	パルプ繊維混入セメント板	12mm	100mm ～ 2,000mm	軒先	3-4
					壁際	5-6
QF030RS-0352-1	FV-DE12-1	火山性ガラス質堆積物粉体混入ロックウール板 (一般名称)高圧岩綿複層板	12mm	100mm ～ 2,000mm	軒先	7-8
					壁際	9-10
QF030RS-0363-1	FV-DE12-1	繊維混入けい酸カルシウム板	12mm	100mm ～ 2,000mm	軒先	11-12
					壁際	13-14
45分準耐火構造認定						
QF045RS-0354-1	FV-DE14-1	パルプ繊維混入セメント板	14mm	100mm ～ 300mm	軒先	15-16
					壁際	17-18
QF045RS-0355-1	FV-DE12-1	火山性ガラス質堆積物粉体混入ロックウール板 (一般名称)高圧岩綿複層板	12mm	100mm ～ 2,000mm	軒先	19-20
					壁際	21-22
全認定 / 軒先・壁際 共通						
役物の施工						23
製品仕様 / 製品寸法図 / 別売品						24

※大臣認定番号に適應する納まりにするため、該当頁の施工説明や納まり図を参考に、大臣認定書の内容に従って施工してください。

1 下地の確認

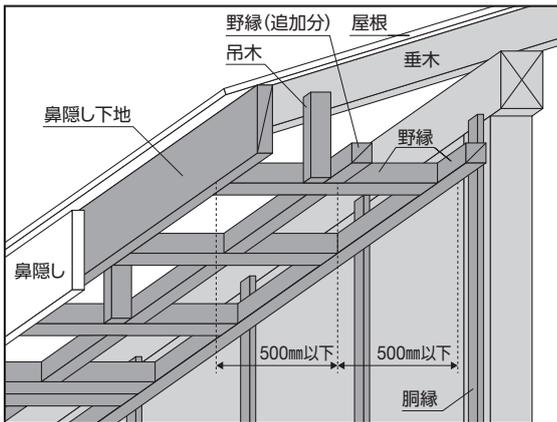
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×35mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際に1本 軒の幅方向：455mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	~45mmまで

軒の出が500mmを超える場合は下地* (野縁・吊木) を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向：500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：500mm以下 軒の幅方向：1,000mm以下

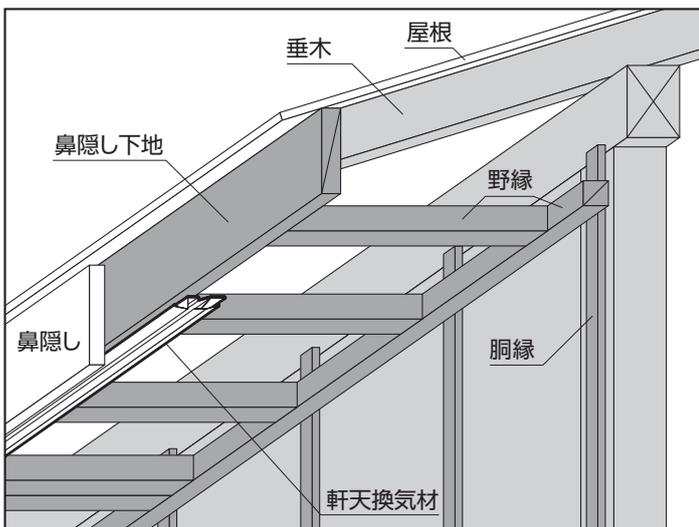
※下地の確認 (野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格 (JAS) に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

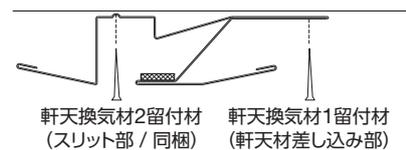
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ (同梱の化粧ビスを含む) を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)



● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.8以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.8以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

❗ 換気性能が確保できなくなるため、鼻隠し下地で通気穴を塞がないでください。

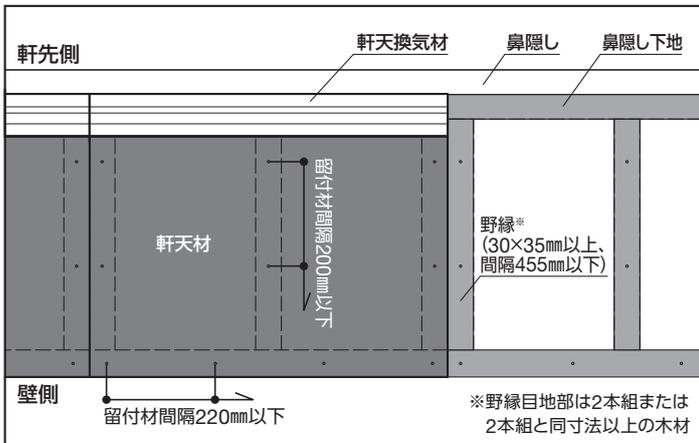
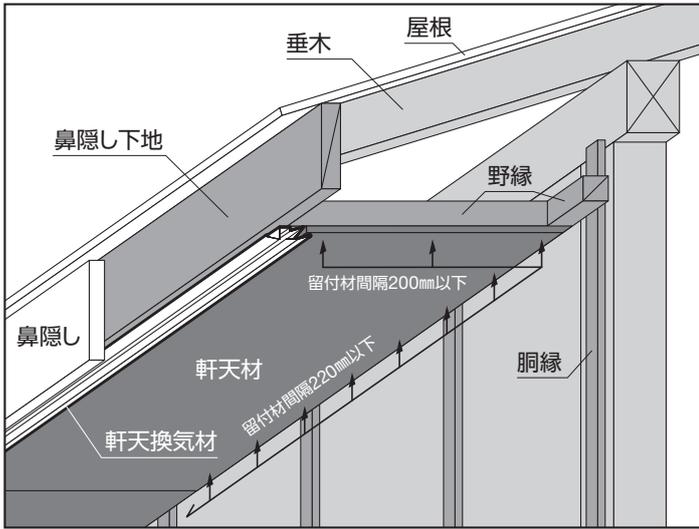
軒先

【30分準耐火構造認定】QF030RS-0364-1
FV-DE12-1-L18 + パルプ繊維混入セメント板 12mm

軒の出
100mm~2,000mm

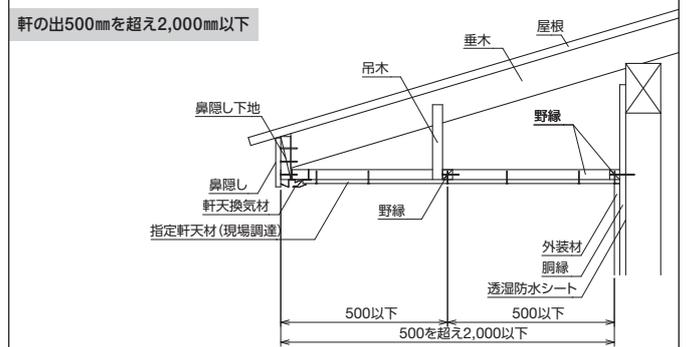
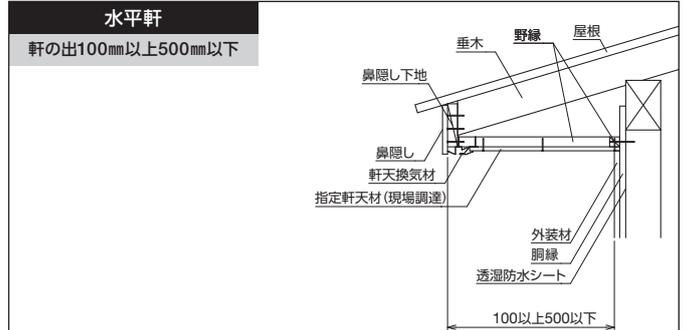
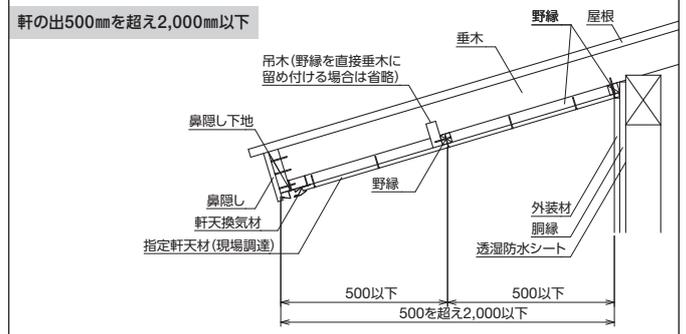
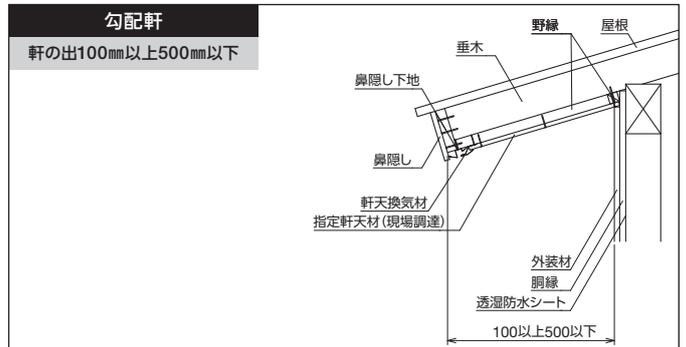
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



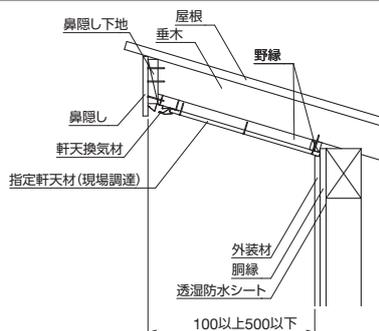
軒天材		
留付間隔	軒の出方向：200mm以下	軒の幅方向：220mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.3以上×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)	

参考納まり図



参考

水上側

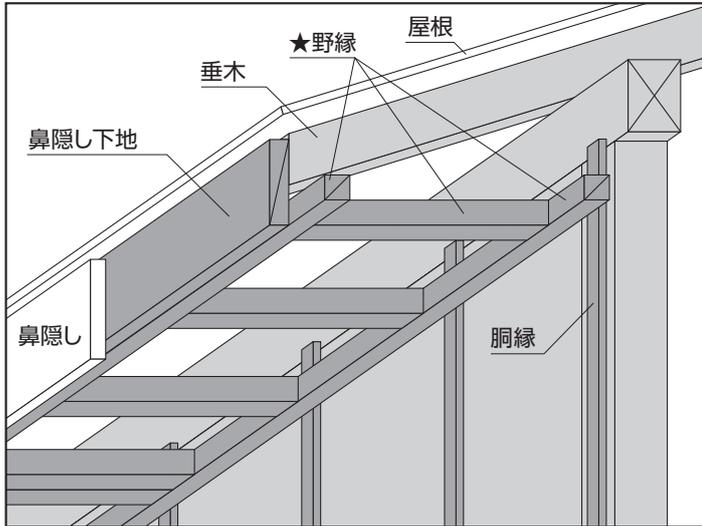


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基で使用ください。

1 下地の確認

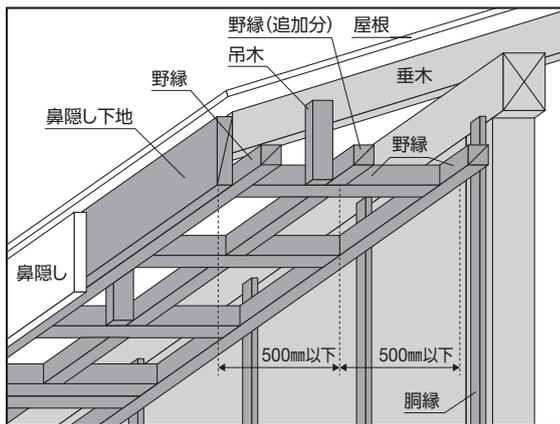
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×35mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際と軒先に各1本 軒の幅方向：455mm以下の間隔

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向：500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：500mm以下 軒の幅方向：1,000mm以下

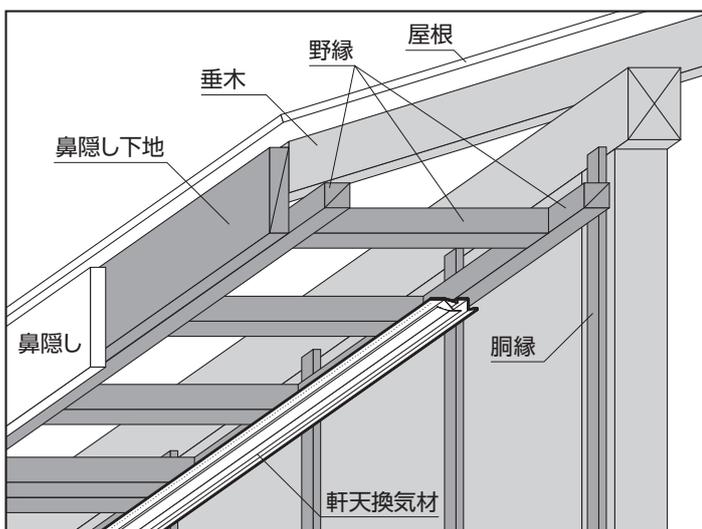
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)

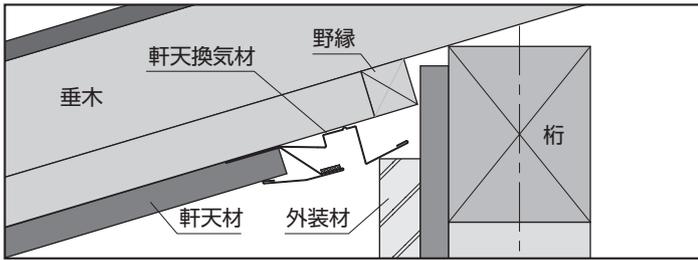


● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.8以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.8以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

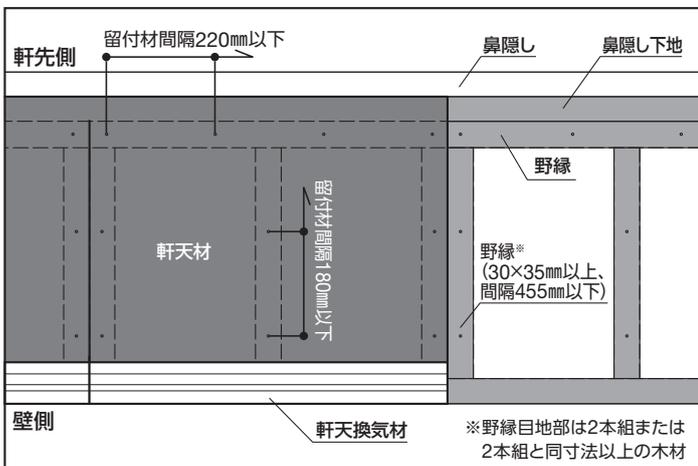
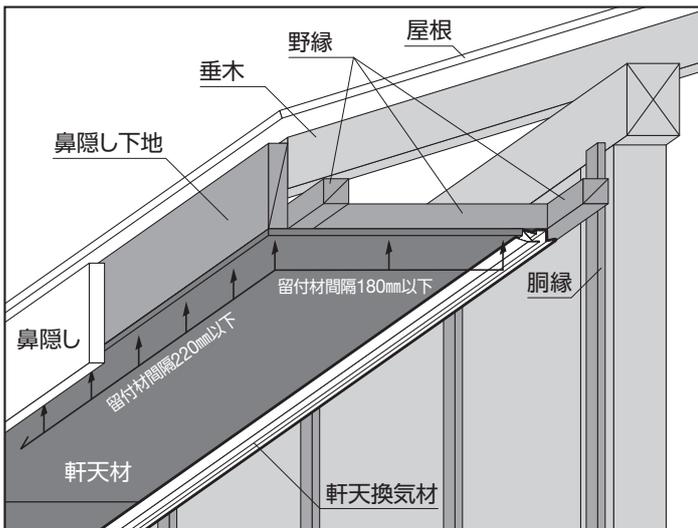


壁際に使用する場合は、外装材の仕上げ厚さを加味して留め付けてください。特に勾配軒天の場合は、外装材を施工する際に換気スリットを塞がないように本体を逃がして留め付けてください。

3 軒天材の留め付け

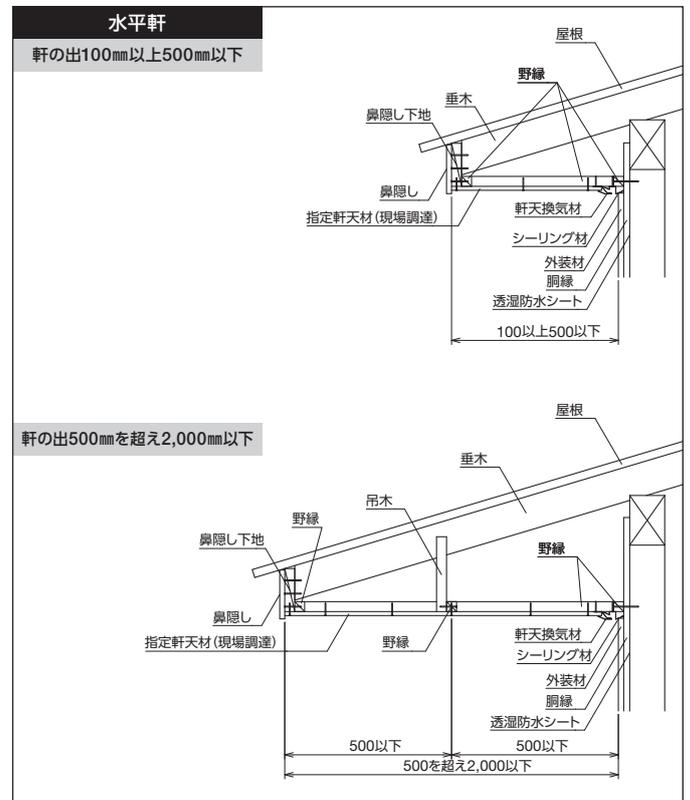
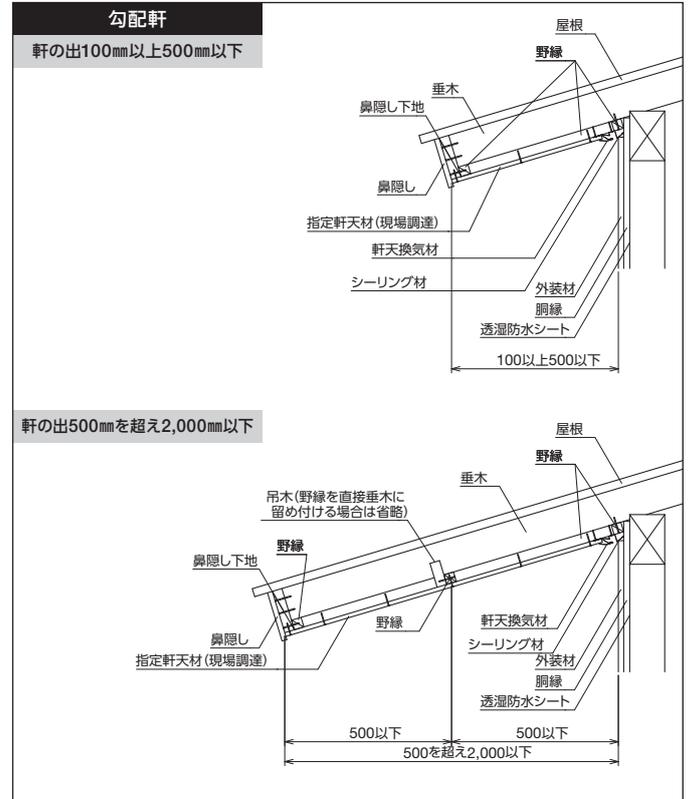
軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



軒天材		
留付間隔	軒の出方向：180mm以下	軒の幅方向：220mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.3以上×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)	

参考納まり図

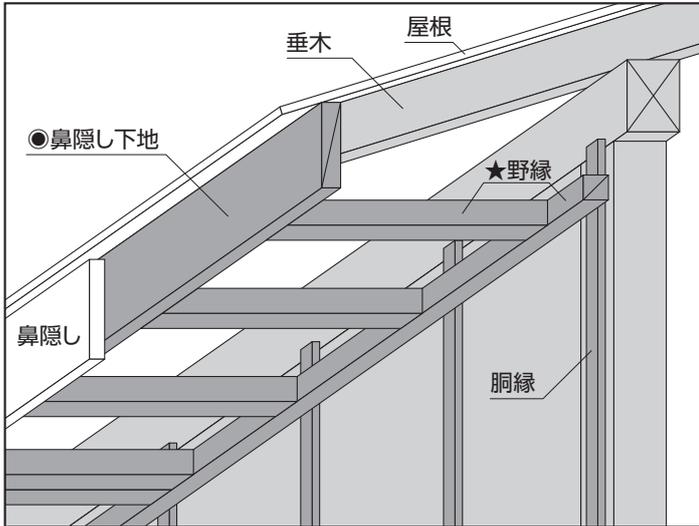


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は軒先での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基でご使用ください。

1 下地の確認

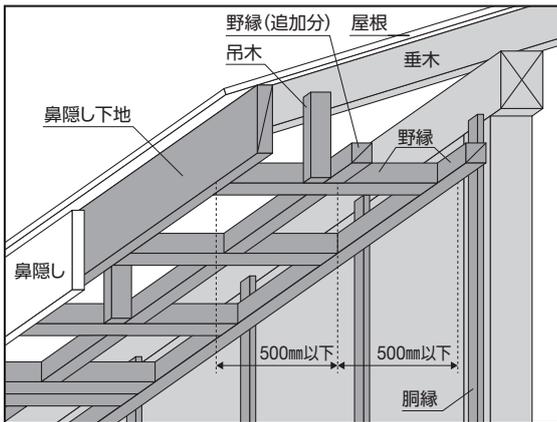
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×30mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 壁際に1本 軒の幅方向: 455mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向: 500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 500mm以下 軒の幅方向: 1,000mm以下

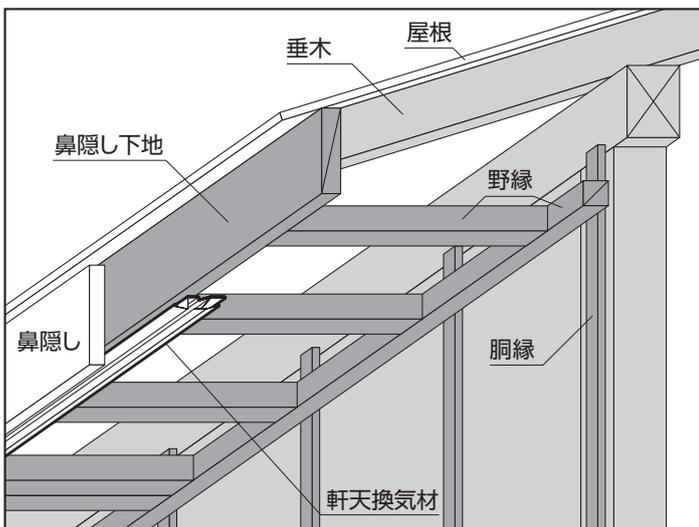
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

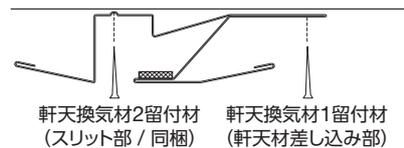
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)



● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

❗ 換気性能が確保できなくなるため、鼻隠し下地で通気穴を塞がないでください。

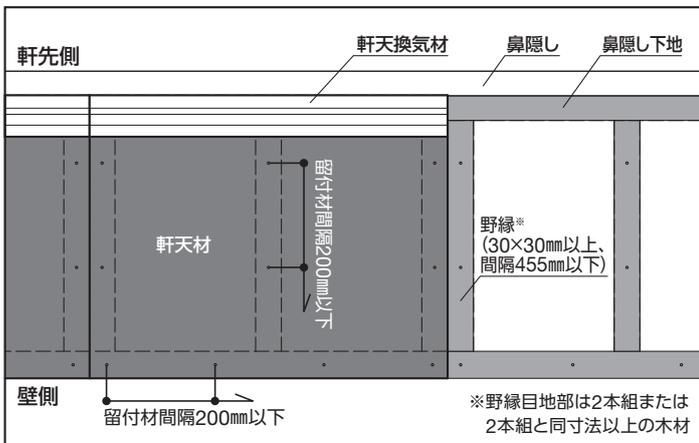
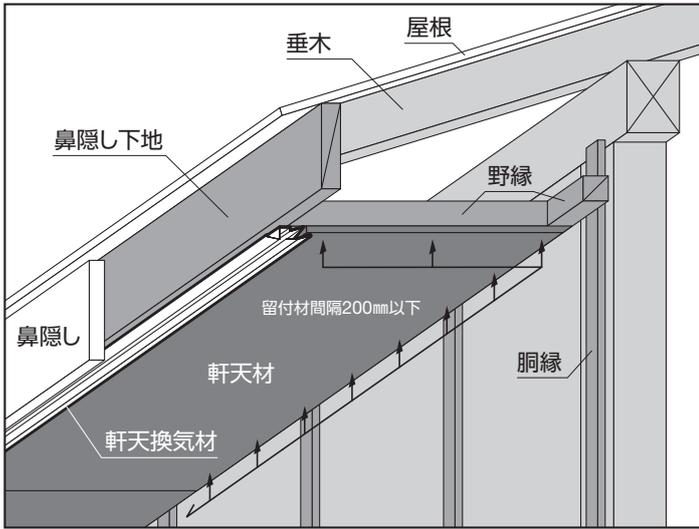
軒先

【30分準耐火構造認定】QF030RS-0352-1
FV-DE12-1-L18 + (一般名称) 高圧岩綿複層板 12mm

軒の出
100mm~2,000mm

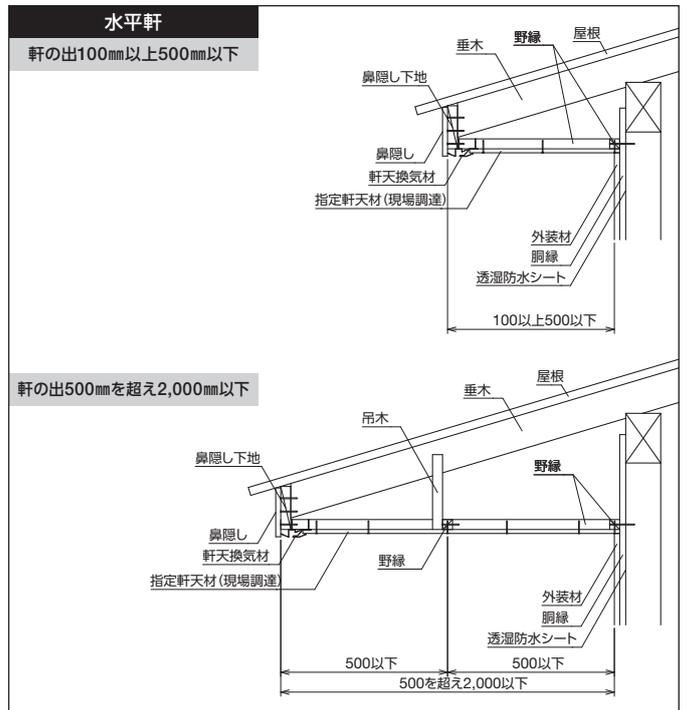
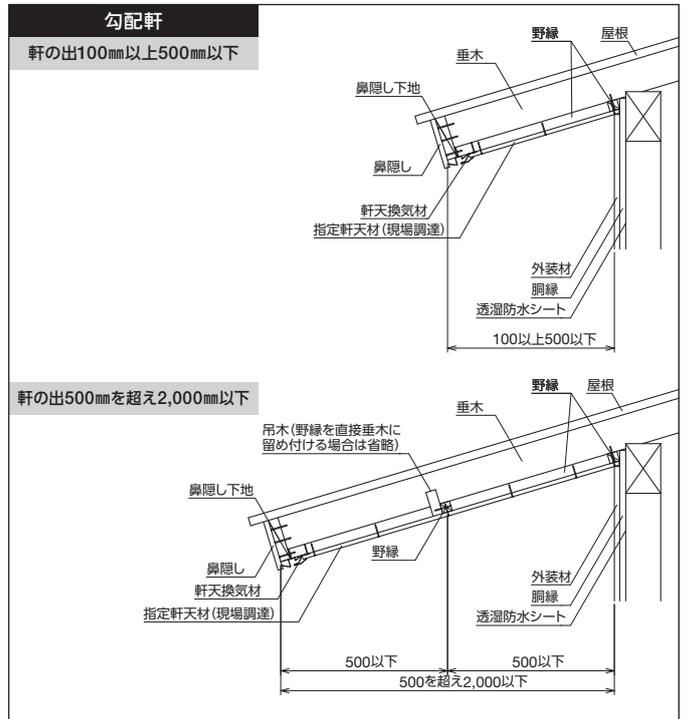
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



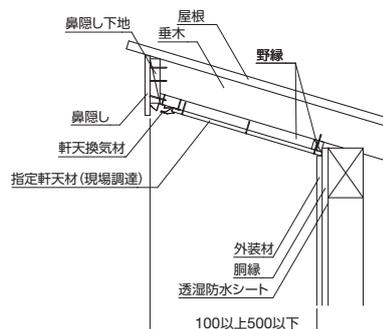
軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)

参考納まり図



参考

水上側

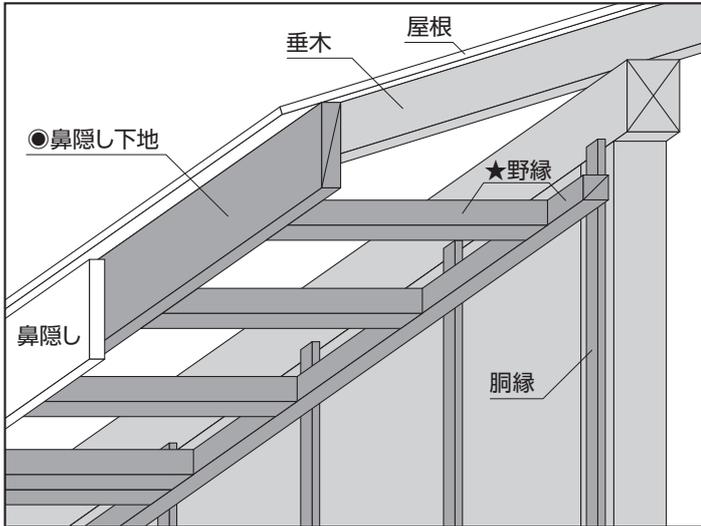


※防水性能より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基で使用ください。

1 下地の確認

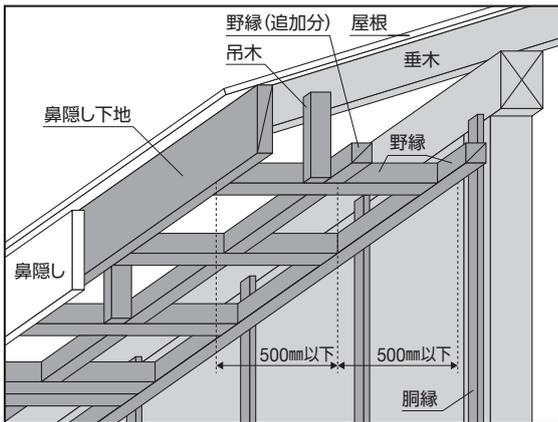
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×30mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 壁際に1本 軒の幅方向: 455mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向: 500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 500mm以下 軒の幅方向: 1,000mm以下

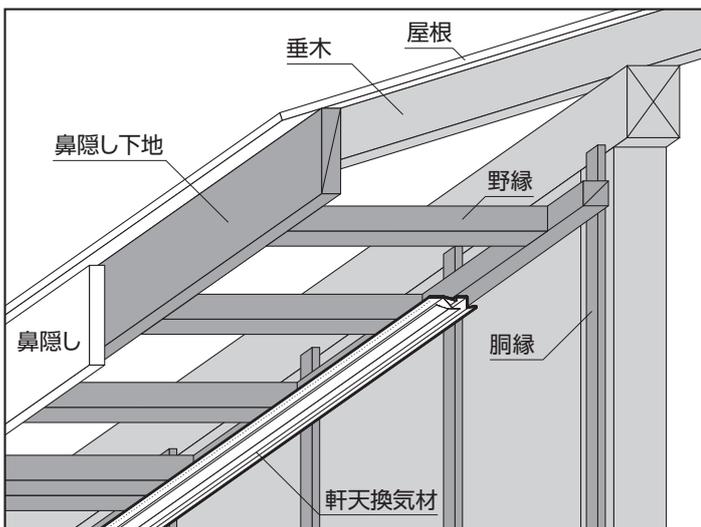
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)

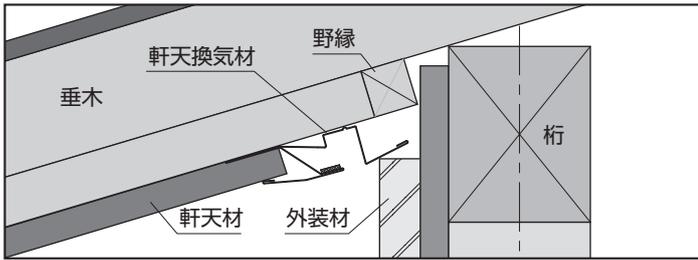


● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

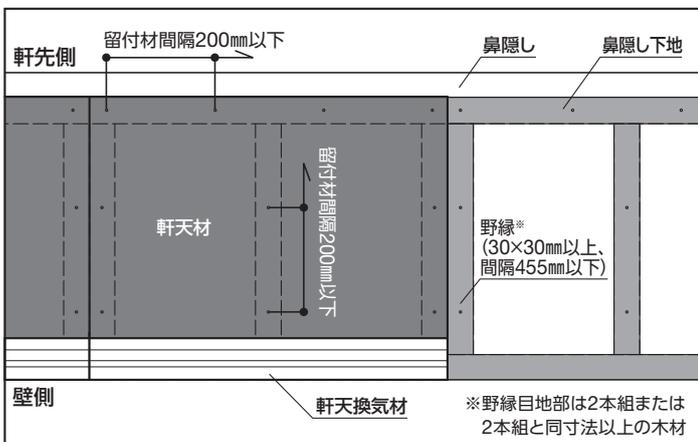
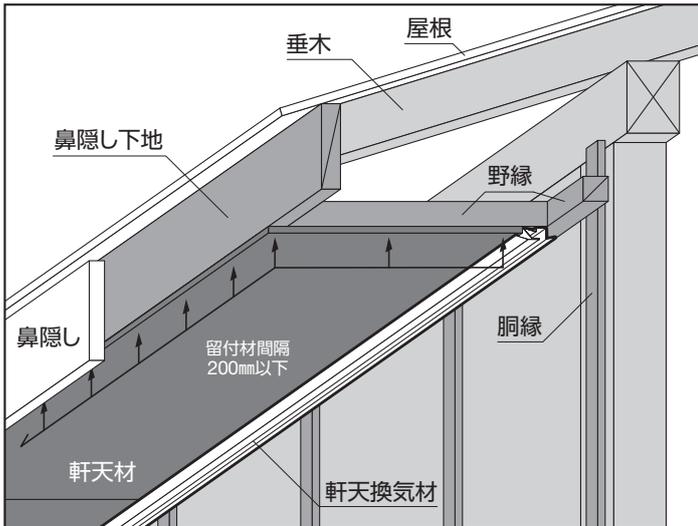
※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め



壁際に使用する場合は、外装材の仕上げ厚さを加味して留め付けてください。特に勾配軒天の場合は、外装材を施工する際に換気スリットを塞がないように本体を逃がして留め付けてください。

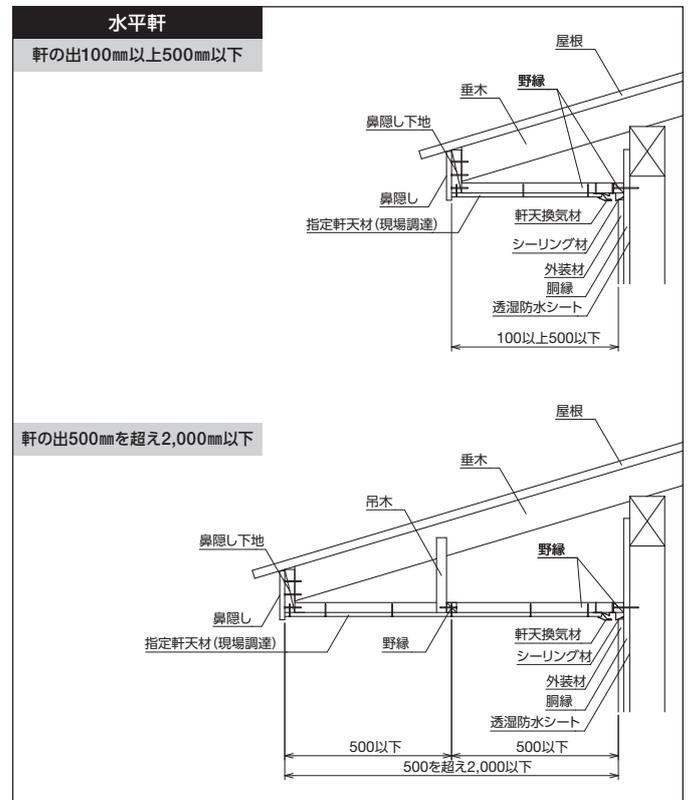
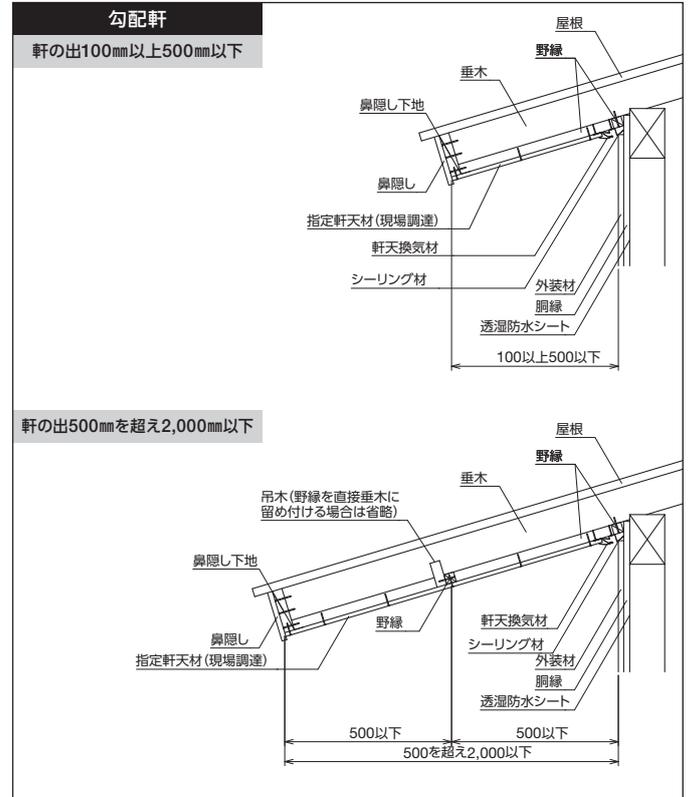
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

参考納まり図

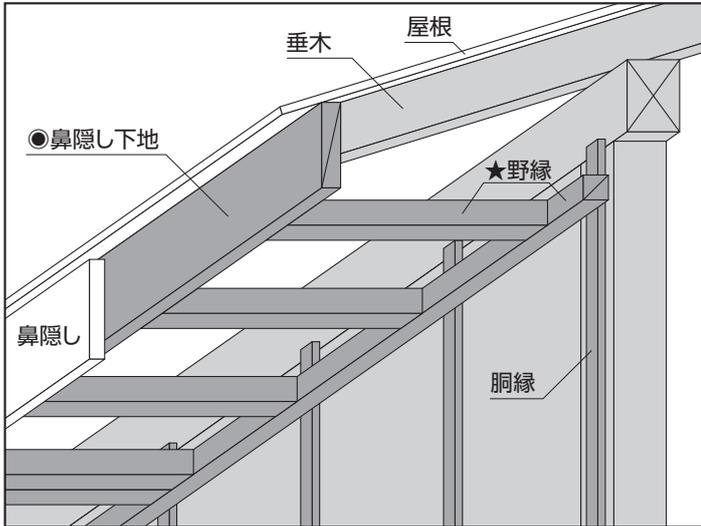


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基ご使用ください。

1 下地の確認

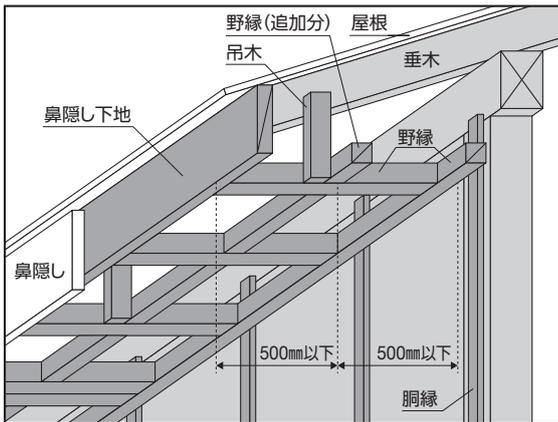
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×35mm以上 被覆材目地部は2本組または2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 壁際に1本 軒の幅方向: 455mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向: 500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 500mm以下 軒の幅方向: 1,000mm以下

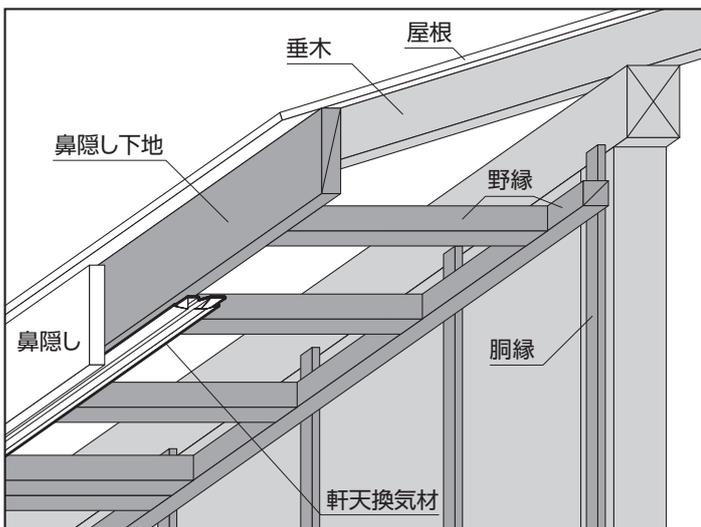
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

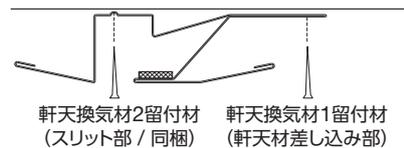
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)



● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9以上×長さ32mm以上のスクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9以上×長さ32mm以上のスクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

❗換気性能が確保できなくなるため、鼻隠し下地で通気穴を塞がないでください。

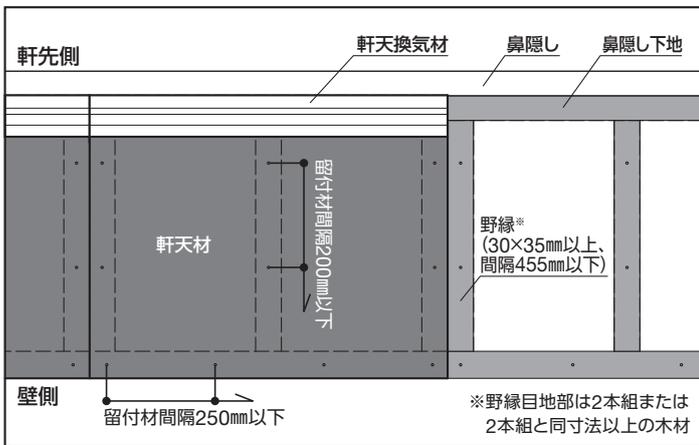
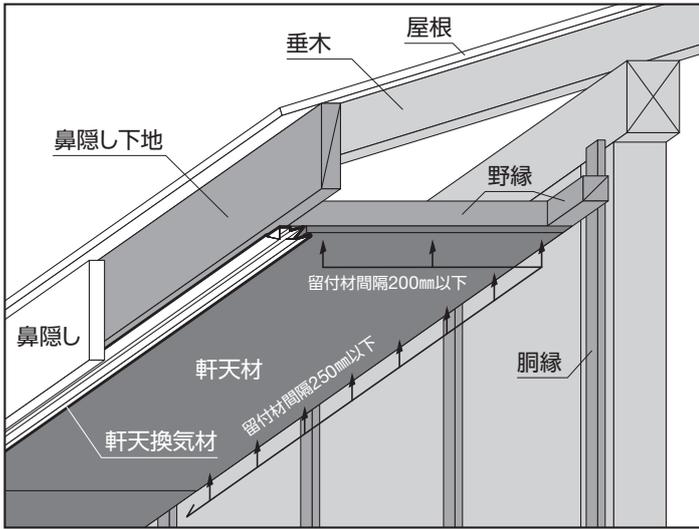
軒先

【30分準耐火構造認定】QF030RS-0363-1
FV-DE12-1-L18 + 繊維混入けい酸カルシウム板 12mm

軒の出
100mm~2,000mm

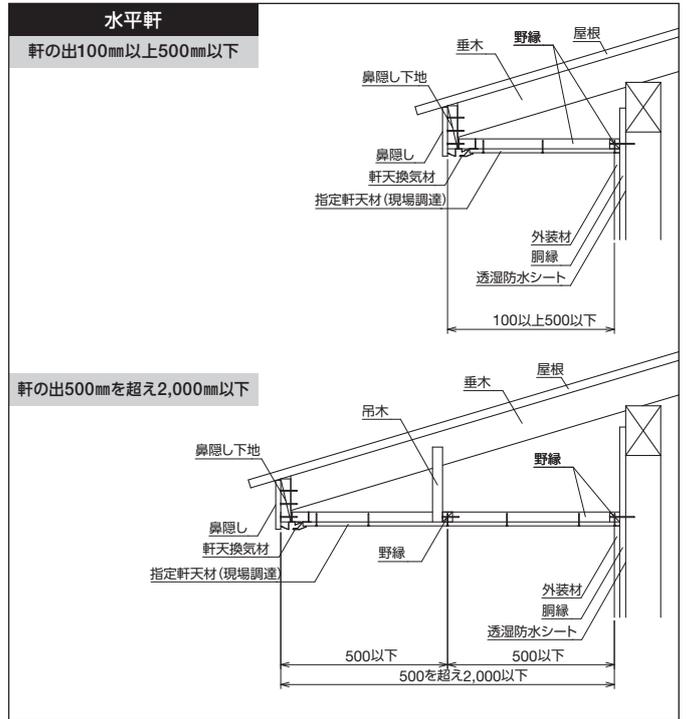
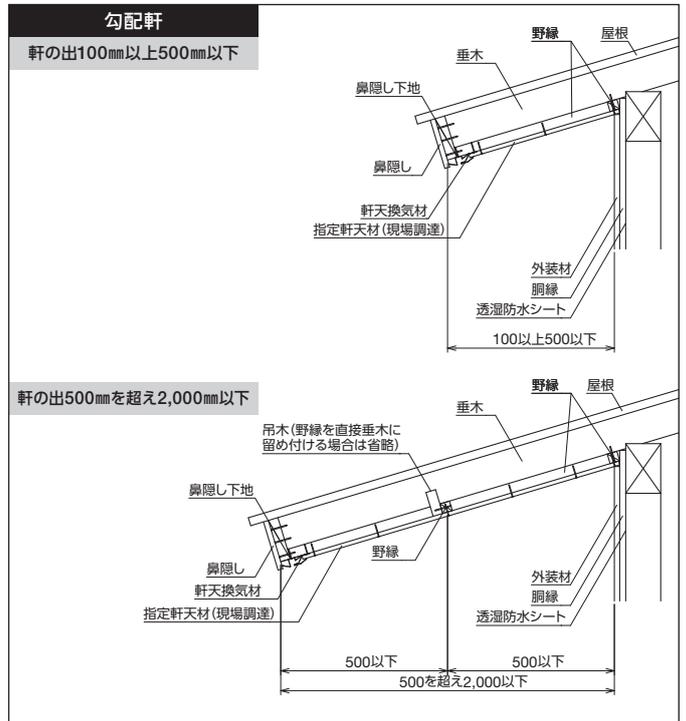
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



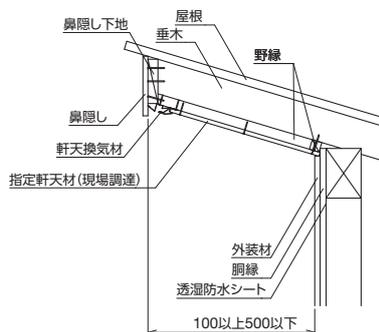
軒天材		
留付間隔	軒の出方向：200mm以下	軒の幅方向：250mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.2×長さ38mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)	

参考納まり図



参考

水上側

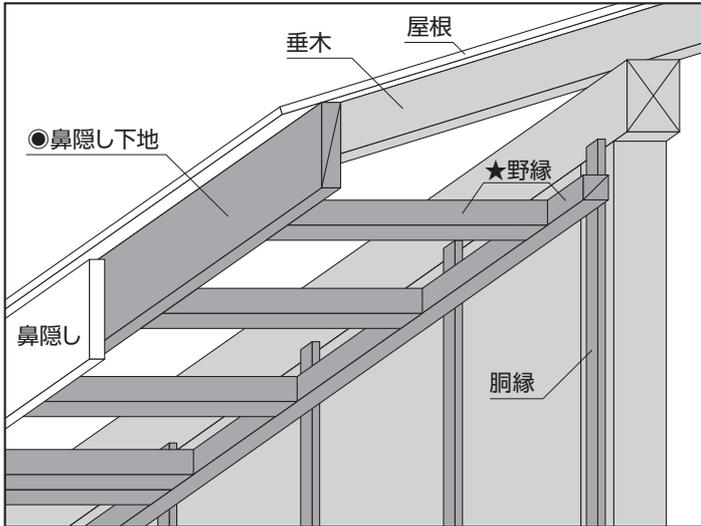


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基で使用ください。

1 下地の確認

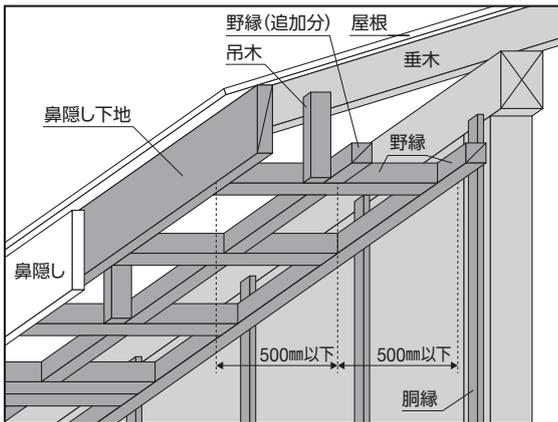
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	30×35mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 壁際に1本 軒の幅方向: 455mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向: 500mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75以上×長さ50mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向: 500mm以下 軒の幅方向: 1,000mm以下

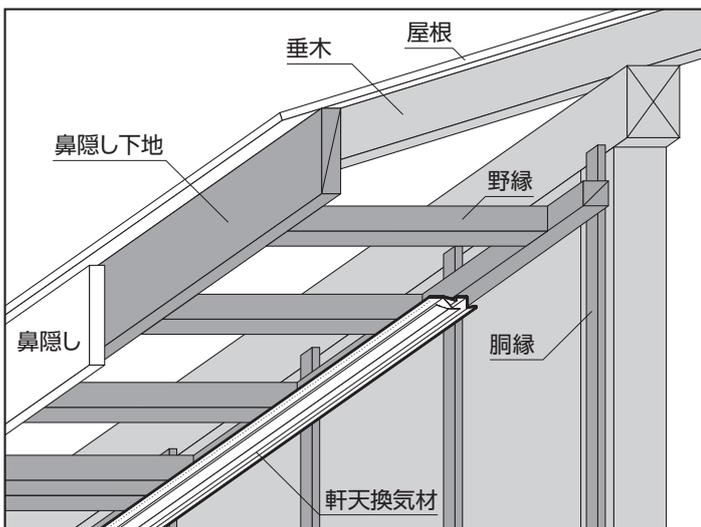
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

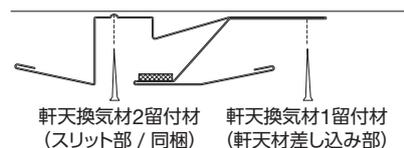
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)

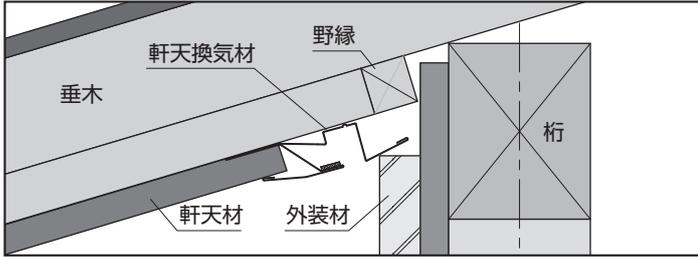


● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9以上×長さ32mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

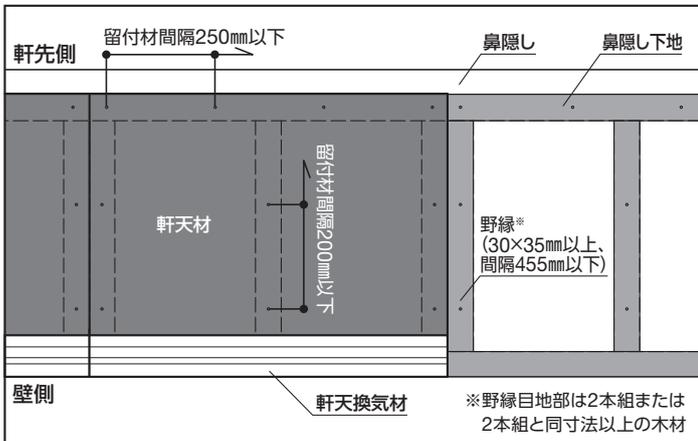
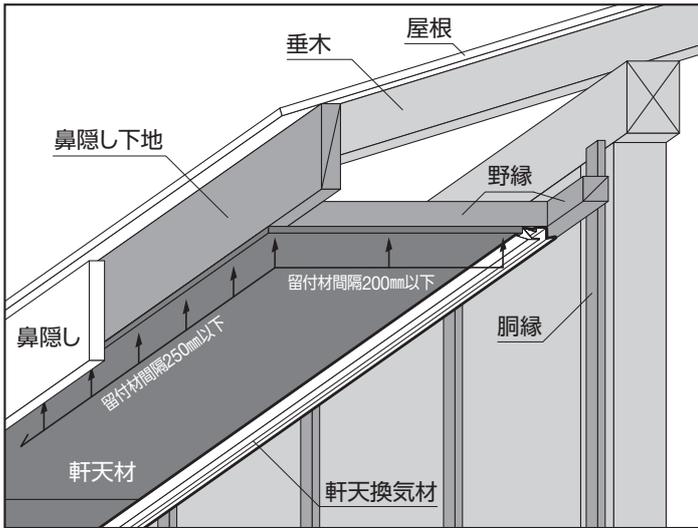
※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め



壁際に使用する場合は、外装材の仕上げ厚さを加味して留め付けてください。特に勾配軒天の場合は、外装材を施工する際に換気スリットを塞がないように本体を逃がして留め付けてください。

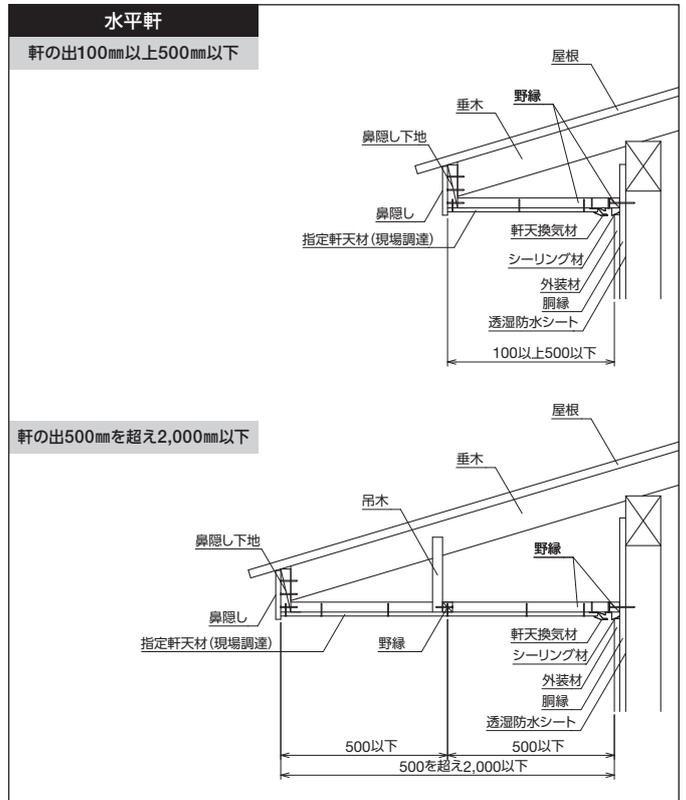
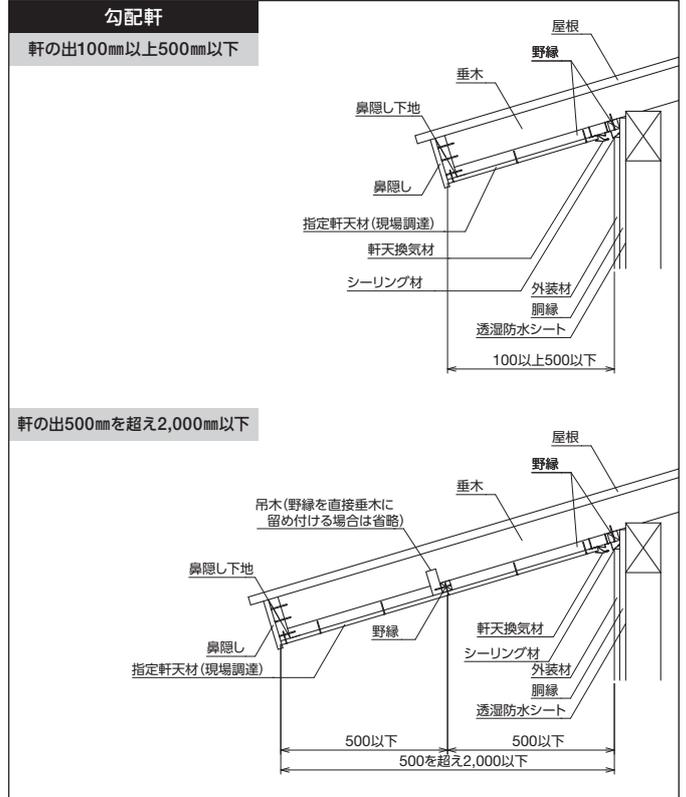
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



軒天材		
留付間隔	軒の出方向：200mm以下	軒の幅方向：250mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.2×長さ38mm以上の スクリュー釘・リング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)	

参考納まり図

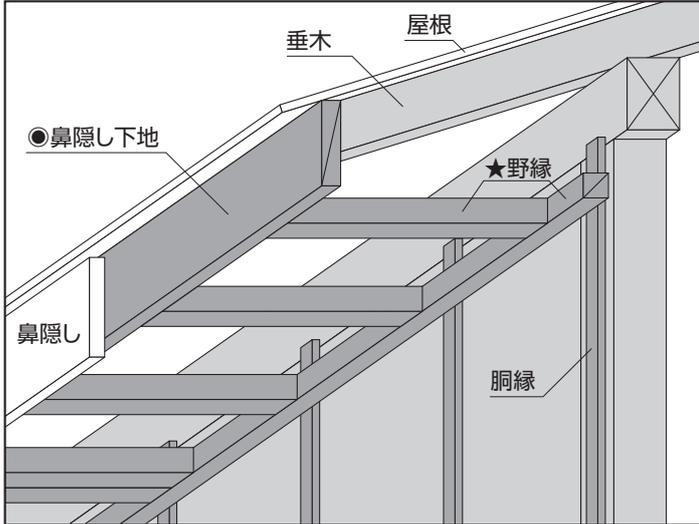


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は軒先での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基でご使用ください。

1 下地の確認

下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 300mm 以下)

★ 野縁	
寸法	45×45 mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ3.05×長さ65 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際に1本 軒の幅方向：455 mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45 mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

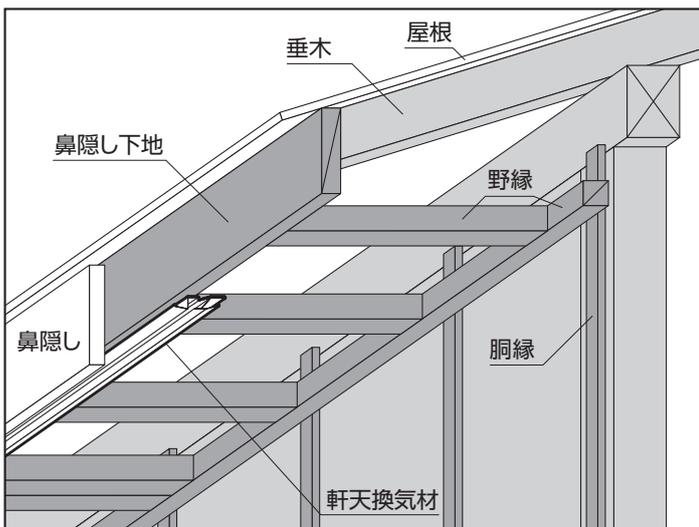
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)



● 留付材と留め付け位置



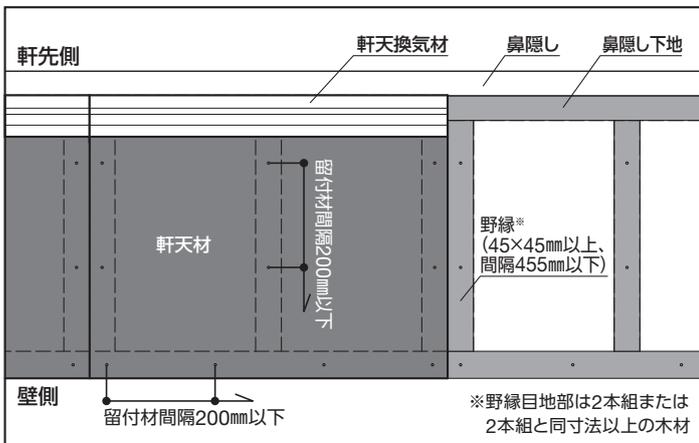
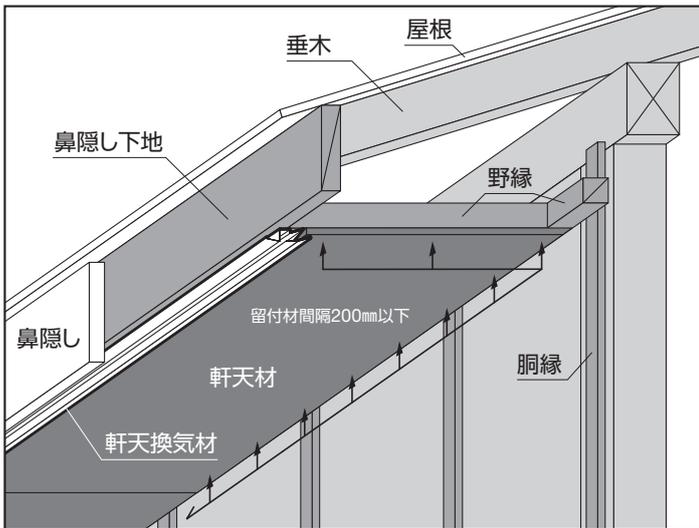
留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

❗ 換気性能が確保できなくなるため、鼻隠し下地で通気穴を塞がないでください。

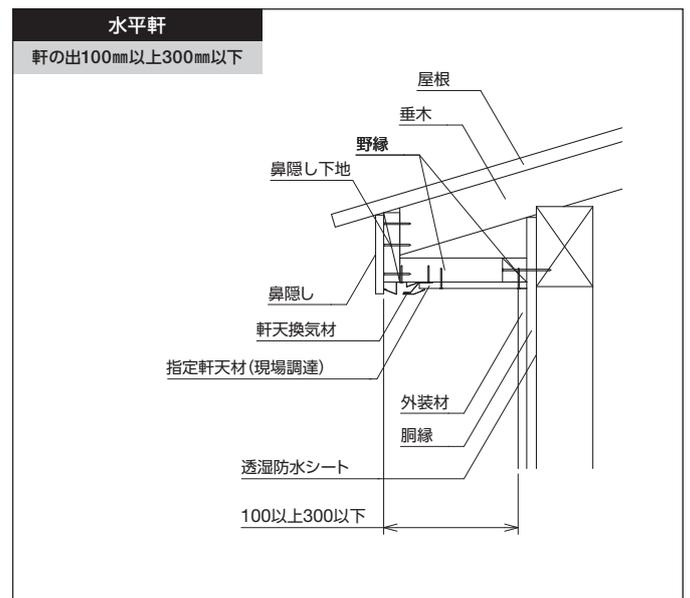
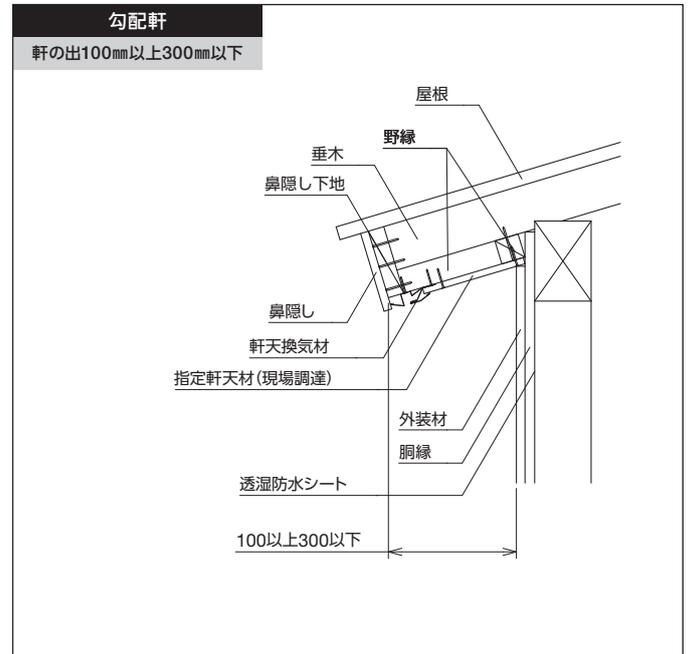
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
 軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



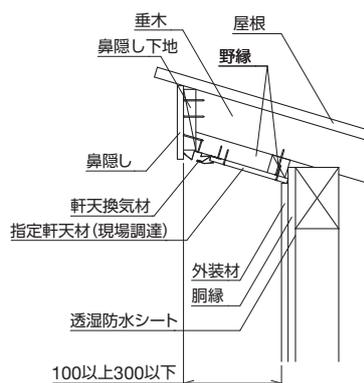
軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

参考納まり図



参考

水上側

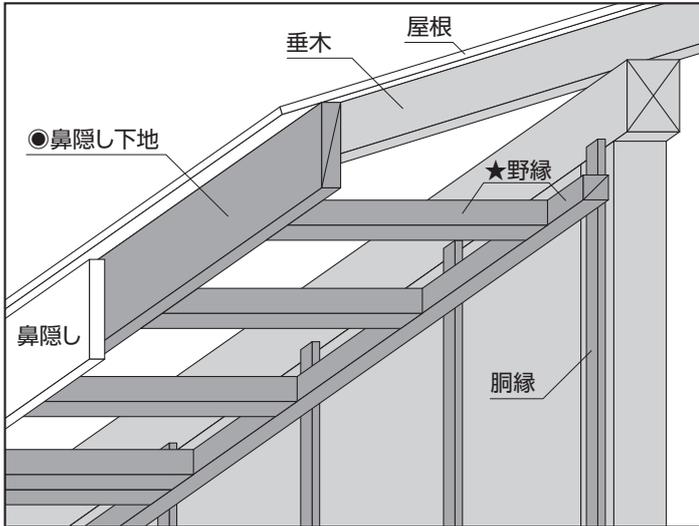


※防水性能より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基で使用ください。

1 下地の確認

下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 300mm 以下)

★ 野縁	
寸法	45×45 mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ3.05×長さ65 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際に1本 軒の幅方向：455 mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45 mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

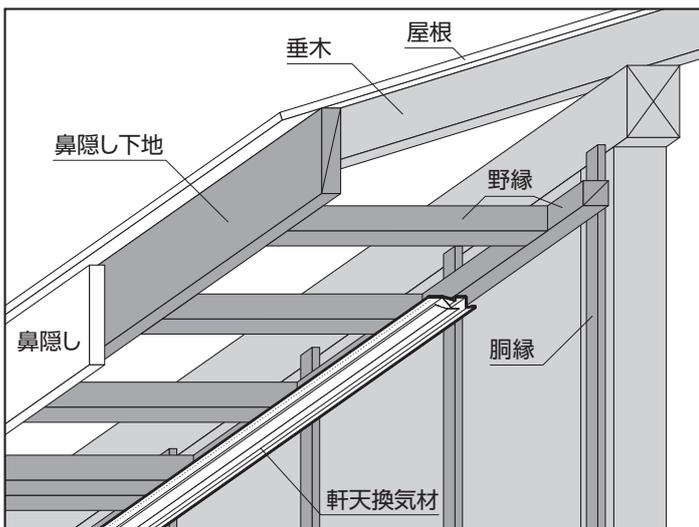
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

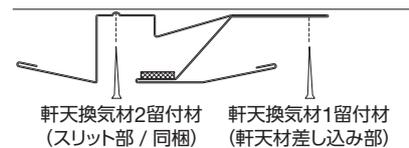
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)

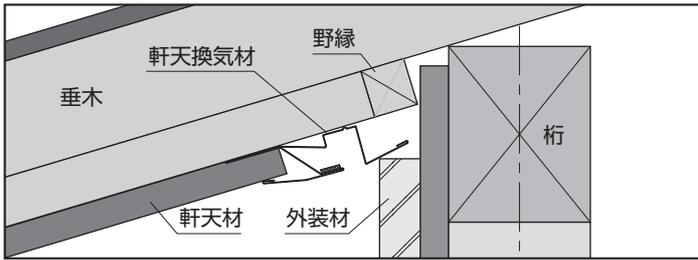


● 留付材と留め付け位置



留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

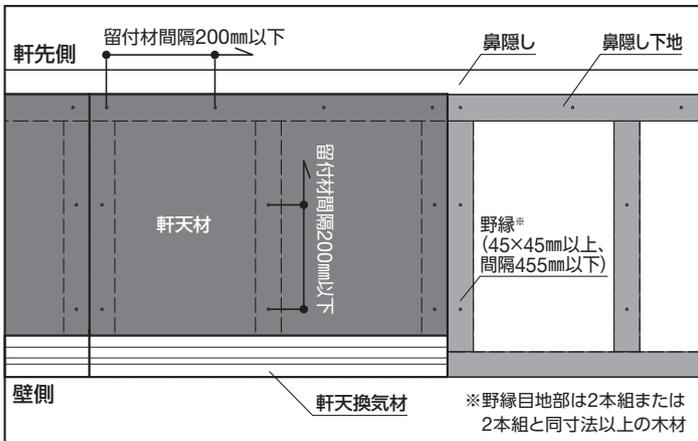
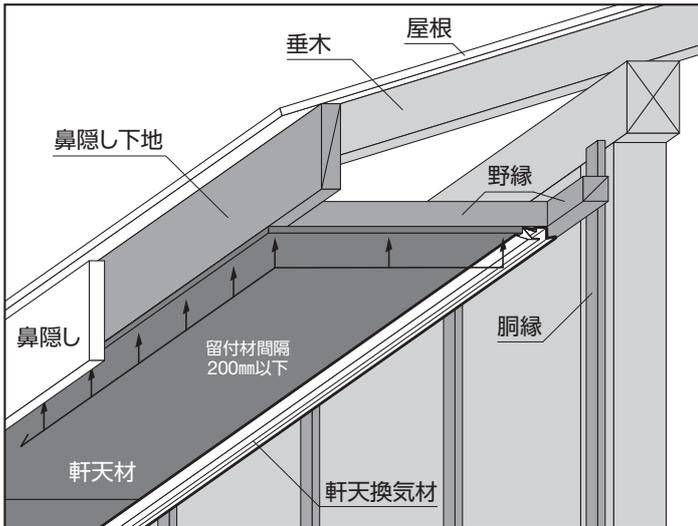
※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め



壁際に使用する場合、外装材の仕上げ厚さを加味して留め付けてください。特に勾配軒天の場合は、外装材を施工する際に換気スリットを塞がないように本体を逃がして留め付けてください。

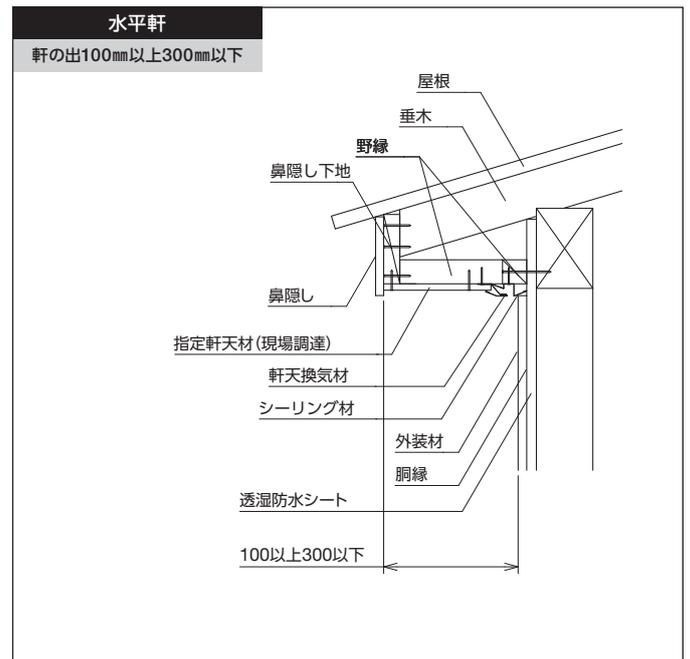
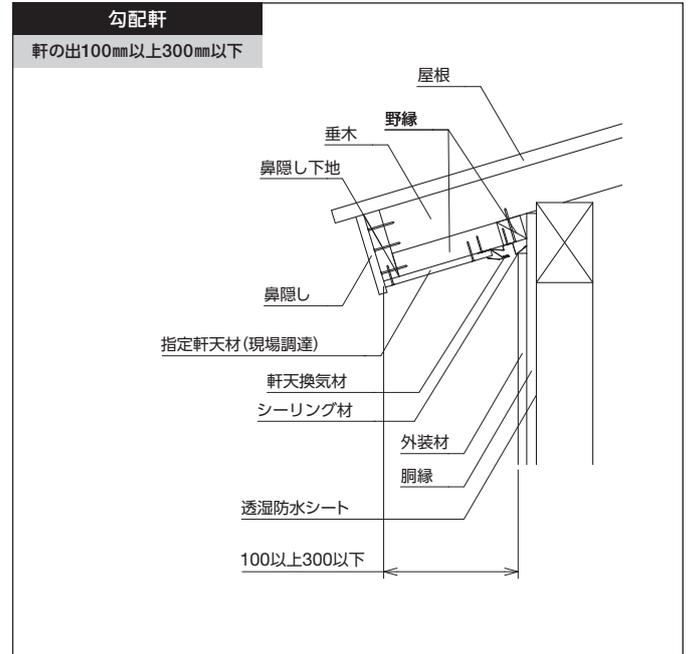
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

参考納まり図

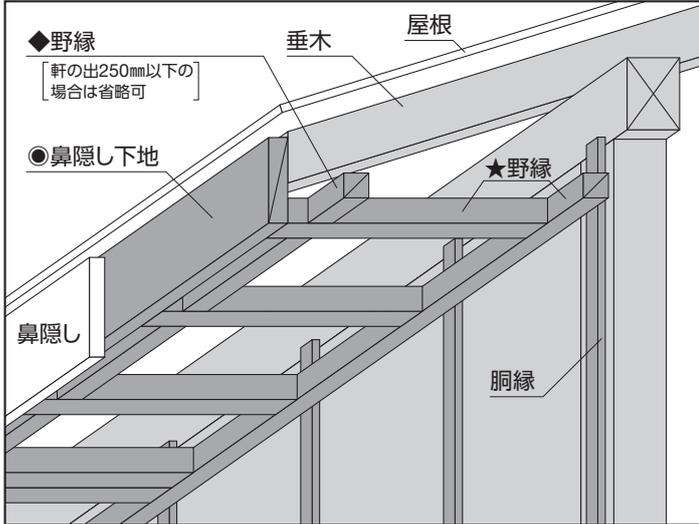


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基でご使用ください。

1 下地の確認

下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。

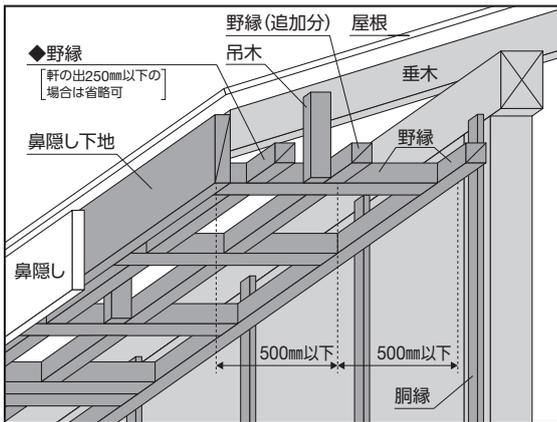


● 各種指定 (軒の出 100mm 以上 500mm 以下)

★ 野縁	
寸法	45×45 mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ3.05×長さ65 mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際および軒先側に1本 (軒の出250 mm以下の場合、軒先側野縁の省略可) ◆ 軒の幅方向：455 mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45 mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)

❗ ◆野縁は換気材と軒天材の取り合い部を目安に配置し、換気材の通気穴を塞がないようにしてください。

軒の出が500mmを超える場合は下地* (野縁・吊木) を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野縁 (追加分)	
配置	軒の出方向：500 mm以下の間隔
吊木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30 mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：500 mm以下 軒の幅方向：1,000 mm以下

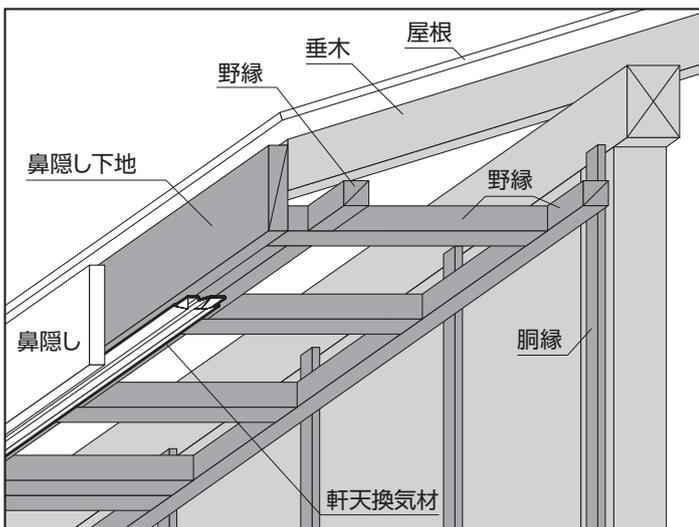
※下地の確認 (野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格 (JAS) に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

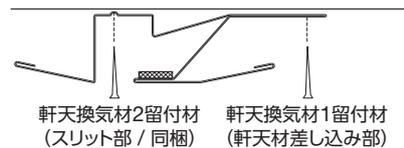
2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ (同梱の化粧ビスを含む) を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)



● 留付材と留め付け位置



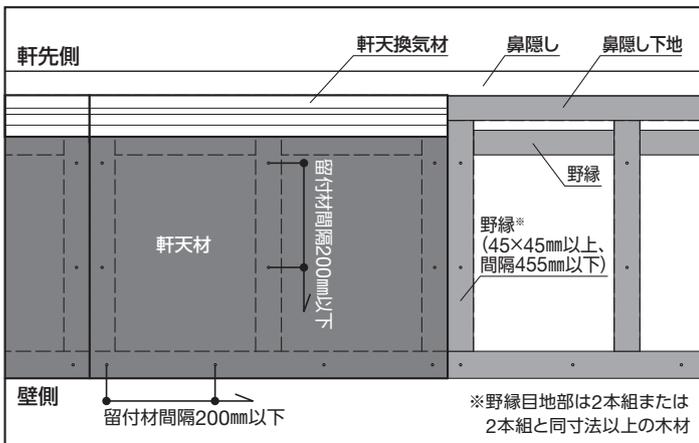
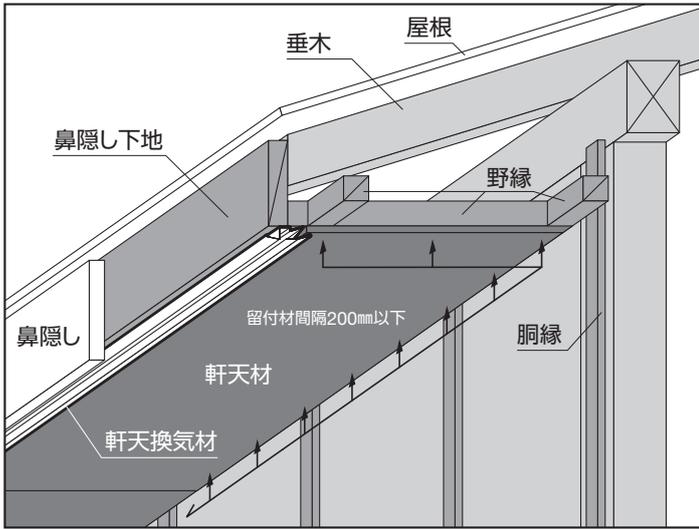
留付材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)

※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め

❗ 換気性能が確保できなくなるため、鼻隠し下地で通気穴を塞がないでください。

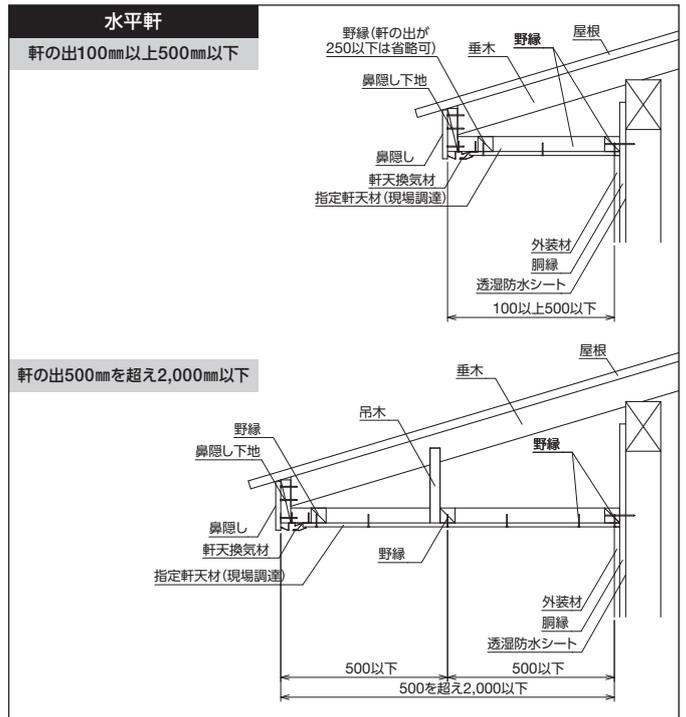
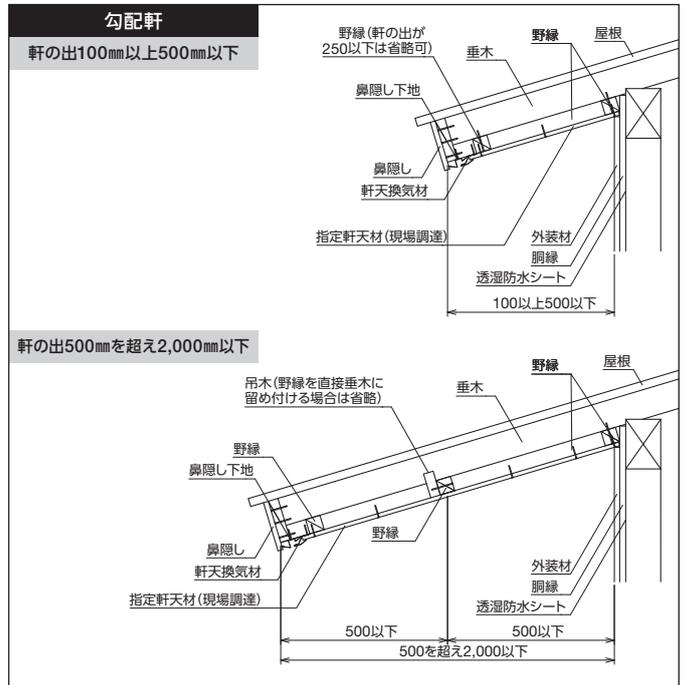
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。
軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



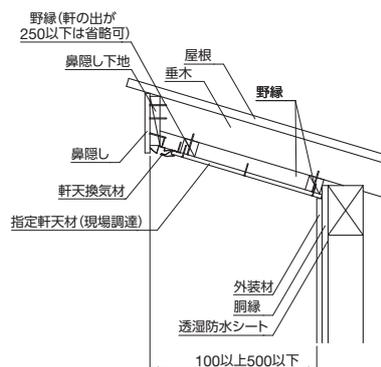
軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ (鋼製・ステンレス製)

参考納まり図



参考

水上側

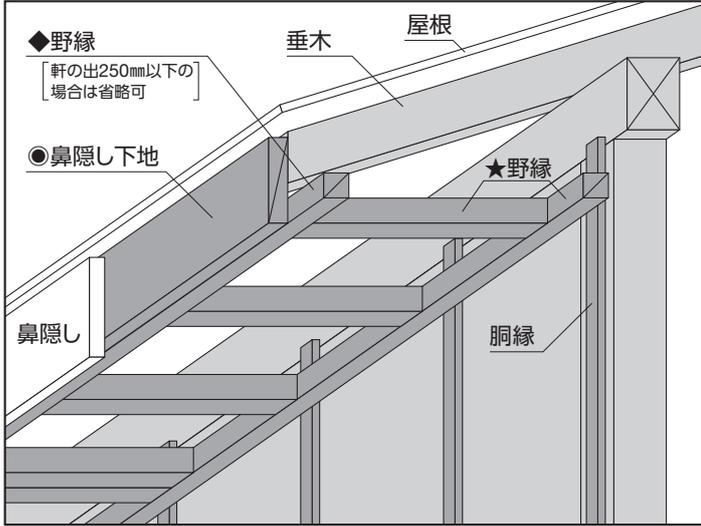


※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基で使用ください。

1 下地の確認

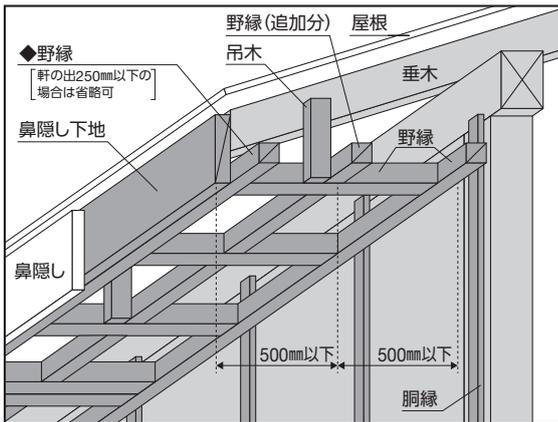
下地*を確認し、野縁・鼻隠し下地を留め付けます。指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で下地を組みます。



● 各種指定 (軒の出 100 mm 以上 500 mm 以下)

★ 野 縁	
寸法	45×45 mm以上 被覆材目地部は2本組はまた2本組と同寸法以上
留付材 (現場調達)	φ3.05×長さ65 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：壁際および軒先側に1本 (軒の出250 mm以下の場合、軒先側野縁の省略可)◆ 軒の幅方向：455 mm以下の間隔
● 鼻隠し下地	
幅寸法	24~45 mmまで
留付本数	垂木1本あたり2本以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

軒の出が500mmを超える場合は下地*(野縁・吊木)を追加します。



● 軒の出が500mmを超える場合

野 縁 (追加分)	
配置	軒の出方向：500 mm以下の間隔
吊 木 (野縁を直接垂木に留め付ける場合は吊木の省略可)	
寸法	25×30 mm以上
留付材 (現場調達)	φ2.75×長さ50 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
配置	軒の出方向：500 mm以下 軒の幅方向：1,000 mm以下

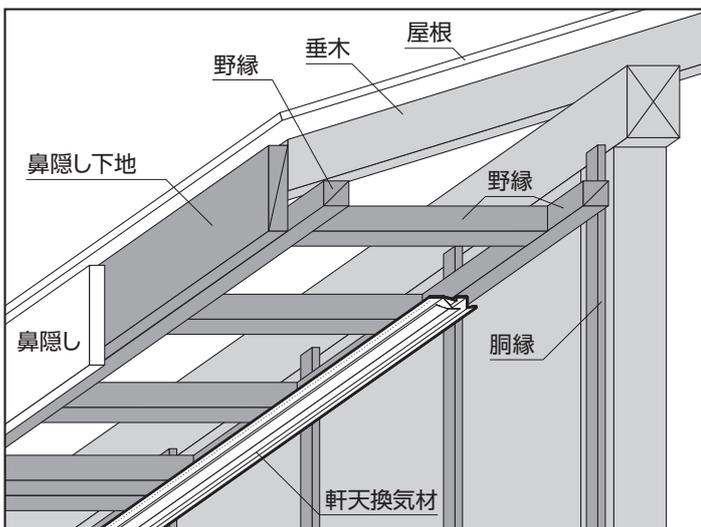
※下地の確認(野縁・鼻隠し下地・吊木 共通)

- 下地材が割れていないか、十分に乾燥しているかご確認ください。
- 日本農林規格(JAS)に適合する製材、集成材、単板積層材、平成12年建設省告示第1452号の第五号に規定する無等級材または第六号に規定する木材を使用してください。

2 軒天換気材の留め付け

下地の次に軒天換気材を留め付けてください。指定の釘またはねじ(同梱の化粧ビスを含む)を用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。

※必ず本体と役物を留め付けた後に軒天材を留め付けてください。(役物施工P23-24参照)

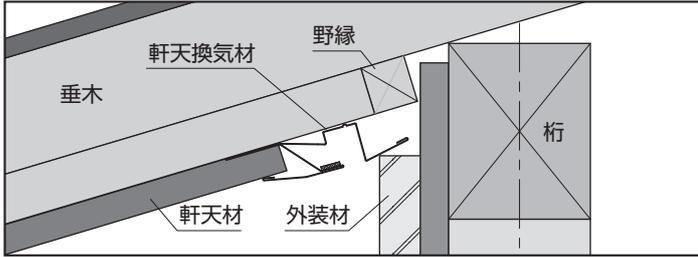


● 留付材と留め付け位置



留 付 材 (軒天換気材)		
軒天換気材 1	留付本数	野縁1本あたり1本以上
	留付材 (現場調達)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)
軒天換気材 2	留付本数	軒天換気材の端部に1本以上
	留付材 (同梱)	φ1.9×長さ32 mm以上の釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

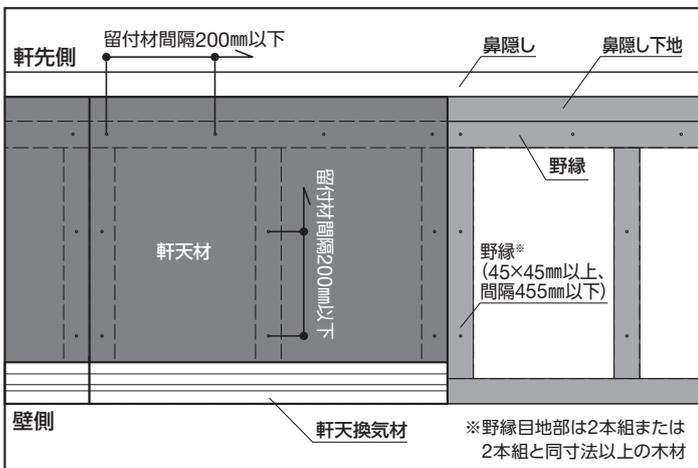
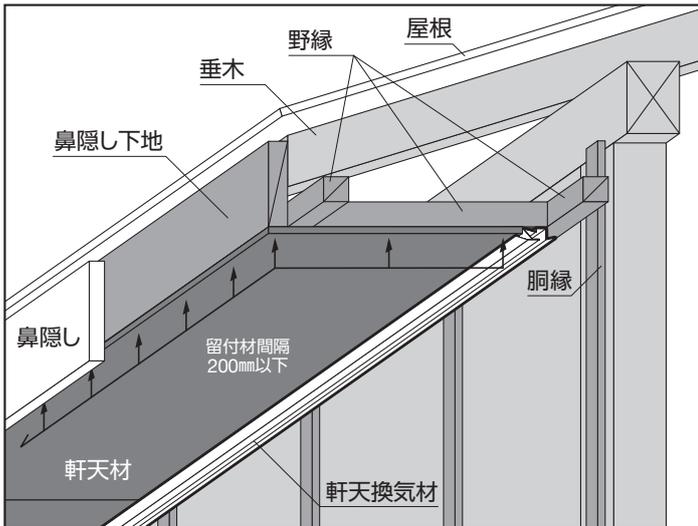
※ジョイント部はジョイントカバー施工時に共締め



壁際に使用する場合は、外装材の仕上げ厚さを加味して留め付けてください。特に勾配軒天の場合は、外装材を施工する際に換気スリットを塞がないように本体を逃がして留め付けてください。

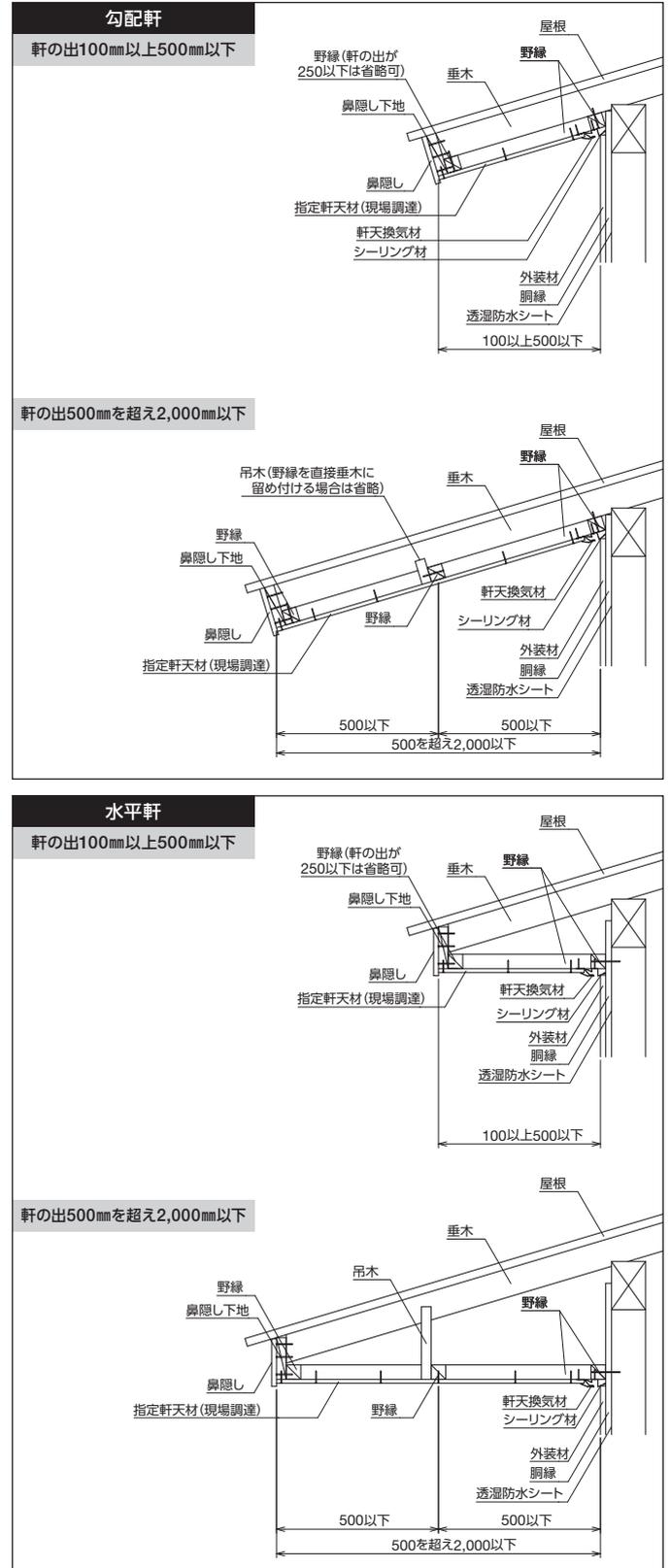
3 軒天材の留め付け

軒天換気材の留め付け後、軒天材を留め付けます。軒天材を軒天換気材の見切り部分に斜めに差し込み、指定の釘またはねじを用い、指定された間隔で野縁へ留め付けます。軒天材の施工につきましては、対応軒天材メーカーの施工説明書を参照ください。



軒天材	
留付間隔	軒の出・幅方向：200mm以下
留付材 (現場調達)	φ2.15×長さ38mm以上のリング釘・ねじ(鋼製・ステンレス製)

参考納まり図



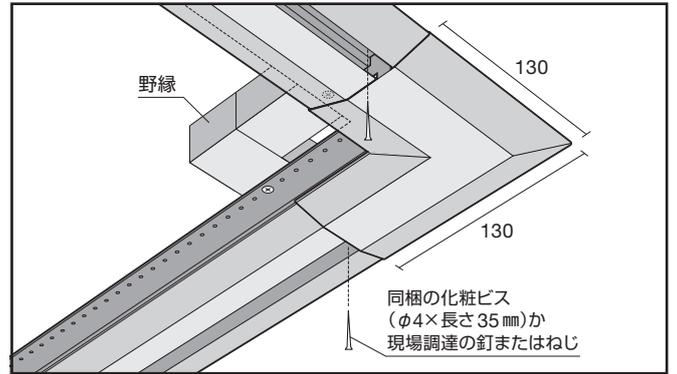
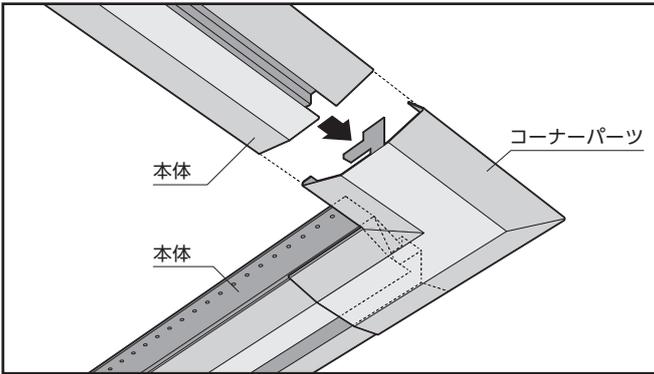
※防水性能面より、水上側・ケラバ側で使用する場合は**軒先**での使用を推奨しています。

※水上側・ケラバ側での防火認定範囲については、設計者の判断の基ご使用ください。

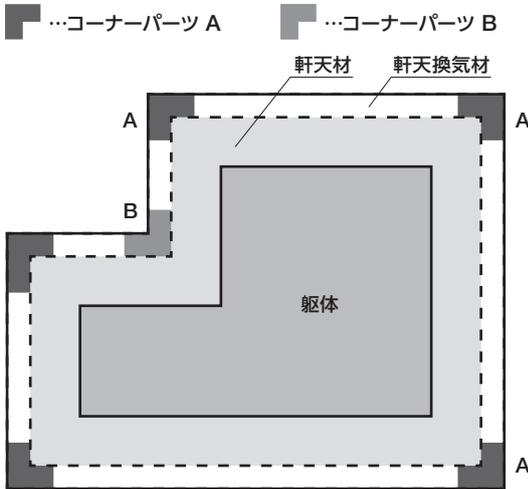
役物の留め付け

●役物は本体の軒天換気材に差し込み留め付けてください。

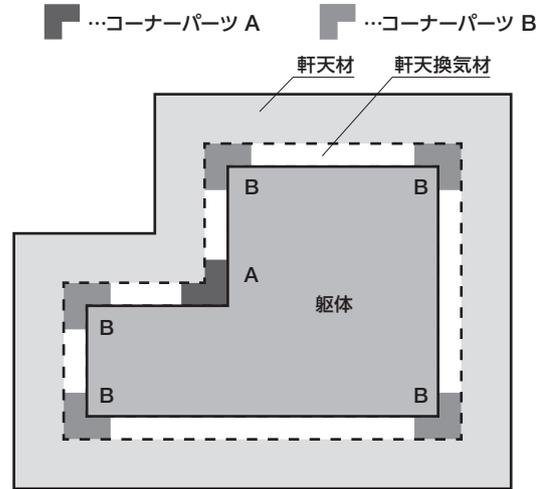
■コーナーパーツ A / B



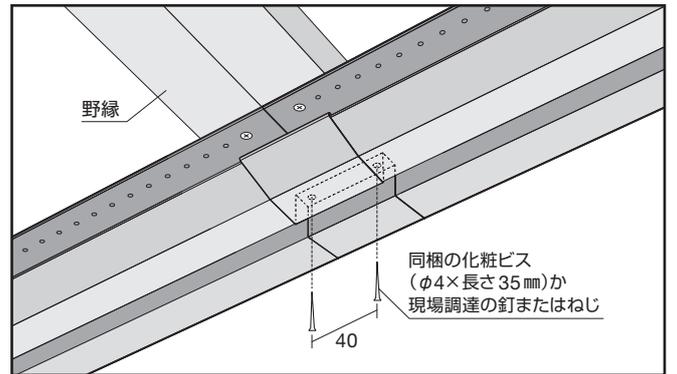
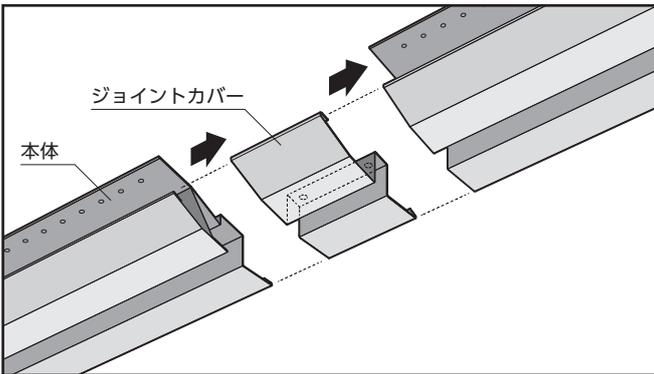
軒先に使用する場合



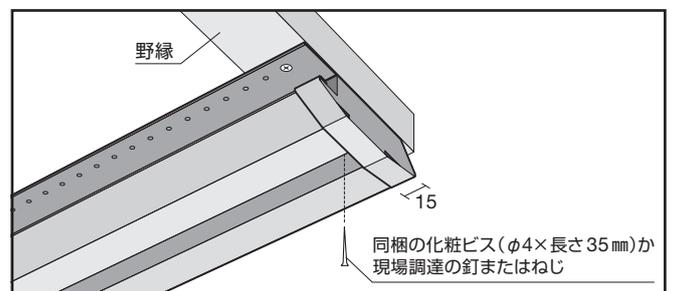
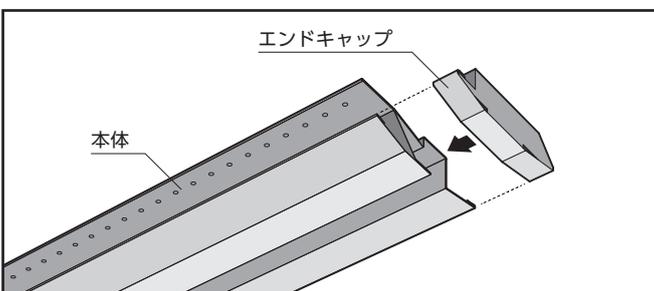
壁際に使用する場合



■ジョイントカバー



■エンドキャップ



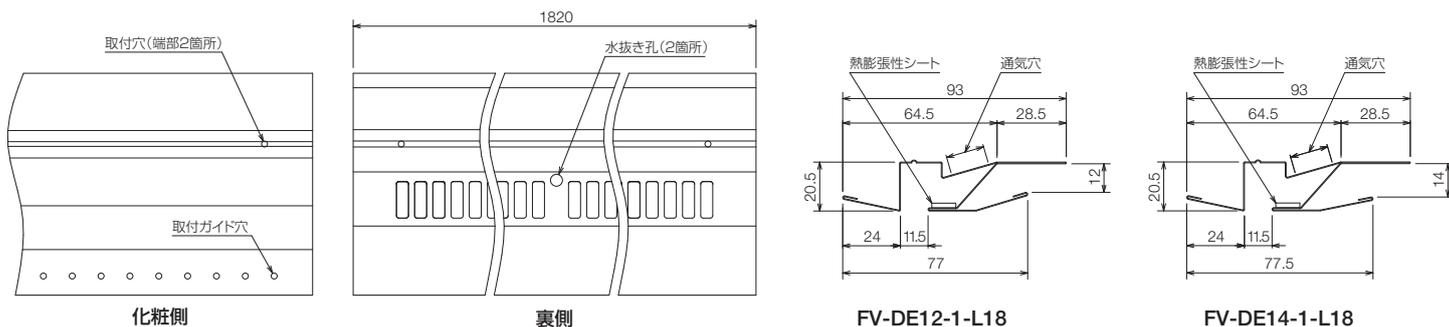
製品仕様

品名	防火対応 軒天換気材 (軒先・壁際タイプ)	
品番	FV-DE12-1-L18	FV-DE14-1-L18
適応軒天厚さ	12mm	14mm
材質	カラーGL鋼板* (厚さ:0.35mm) 高耐食仕様/熱膨張性シート	
長さ	1,820mm	
梱包	6本/ケース	
付属品	化粧ビス 36本/ケース (6本/袋×6袋)	

※有効換気面積：101cm²/m

*JIS G3322

製品寸法図 (単位:mm)

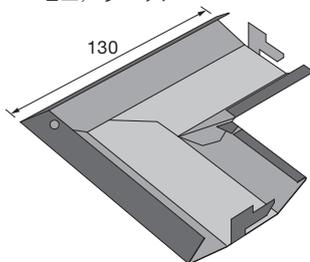


別売品 (単位:mm)

●コーナーパーツ A

FV-DE12AC
FV-DE14AC

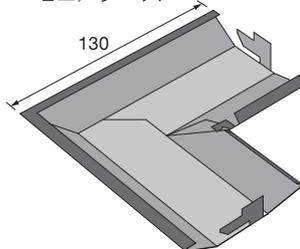
2コ/ケース



●コーナーパーツ B

FV-DE12BC
FV-DE14BC

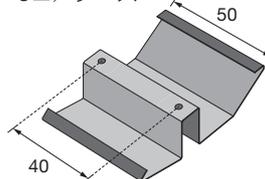
2コ/ケース



●ジョイントカバー

FV-DE12-JC
FV-DE14-JC

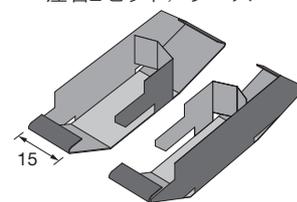
6コ/ケース



●エンドキャップ

FV-DE12-EC
FV-DE14-EC

左右2セット/ケース



コーナーパーツA・Bは下記を参考に判別ください

